令和６年度

事 業 報 告 書

社会福祉法人　秋田県社会福祉事業団

目　　次

令和６年度　秋田県社会福祉事業団事業報告書

ページ

Ⅰ　概況 -------- 1

Ⅱ　施設別の概要

秋田県北部老人福祉総合エリア -------- 7
秋田県中央地区老人福祉総合エリア -------- 9
秋田県南部老人福祉総合エリア -------- 11
高清水園 -------- 16
秋田県心身障害者コロニー -------- 18
由利本荘地域生活支援センター -------- 21
阿桜園 -------- 23
湯沢雄勝広域市町村圏組合　やまばと園 -------- 25
障害者支援センター御所野 -------- 27
秋田県点字図書館 -------- 29
秋田県聴覚障害者支援センター -------- 31

Ⅲ　公益的な取組

事務局 -------- 33
高清水園 -------- 34
秋田県心身障害者コロニー -------- 35
由利本荘地域生活支援センター -------- 36
阿桜園 -------- 38
湯沢雄勝広域市町村圏組合　やまばと園 -------- 39
障害者支援センター御所野 -------- 40
秋田県点字図書館 -------- 41

【資料】

１．　組織 -------- 42
２．　施設の概要 -------- 43
３．　施設のサービス利用状況 -------- 44
４．　役員等 -------- 46
５．　会議等 -------- 47
６．　職員 -------- 50
７．　研修の実施状況 -------- 52
８．　苦情解決処理状況 -------- 59
９．　虐待防止（対策）委員会の開催状況 -------- 61
１０．　ハイクオリティサービス推進システム -------- 63
１１．　地域密着型サービス外部評価事業 -------- 63

Ⅰ　概　況

概　況

当事業団の運営に当たっては、「５カ年経営計画」（令和３～令和７年度）に基づき、利用者ニーズを踏まえたサービスの提供に引き続き努めた。

経営計画の４年目として、次期中期経営計画を視野に入れながら、職員採用方法の検討を進め、人材確保の取組強化を図るとともに、業務の効率化への取組を進め、持続可能な法人経営に努めた。

１　信頼され選ばれる施設づくり

（１）　質の高い福祉サービスの提供

①　利用者の高齢化・重度化への対応

心身障害者コロニーにおいて、強度行動障がい、行動障がい専用棟内に日中活動場所を設置し、メリハリのある生活リズムの確立を図った。また、高齢の就労継続支援Ｂ型サービス利用者の意思を尊重しながら、身体状況に合わせた作業種への変更や、生活介護サービス利用への移行等を行った。

支援センター御所野において、高齢入所利用者の介護保険施設移行の可能性について家族や関係機関と情報を共有し、本人の希望や状態を踏まえ、適切なサービス利用の検討を行った。

②　ハイクオリティサービス推進システム（理事長マネジメントレビュー）

質の高いサービス提供のために当法人で独自に運用しているハイクオリティサービス推進システムにおいて、令和６年度の重点事項として理事長から指示・提案があった次の事項について法人全体の課題として取り組んだ。

・事業継続計画の周知及び訓練・研修等の実施について

各施設においてＢＣＰに基づく訓練・研修を実施し、危機発生時の役割分担や行動手順の理解を深めた。

高清水園において、日本赤十字東北看護大学との「洪水被害発生における臨時的避難場所の提供等に関する協定」を令和６年４月に締結し、災害発生時の避難活動における地域連携体制を構築した。併せて同協定に基づいた日中洪水避難想定の合同訓練を２回実施した。また、高清水園と事務局をオンラインでつなぎ、災害想定の机上訓練を実施し、災害発生時の実効性の強化を図った。

心身障害者コロニーにおいて、令和６年７月の豪雨災害発生時にはＢＣＰを運用しながらも臨機応変に対応し、利用者・職員の安全確保に努めることができ、その内容等含め、今後のＢＣＰの運用について、再確認・再構築することができた。

・職員定着の取組について

心身障害者コロニーにおいて、グッドジョブシートを活用して支援等に係る良い取組を職員に周知し、職員のモチベーションの向上と風通しの良いフォローしあえる関係づくりに努めた。

由利本荘地域生活支援センターにおいて、面談で自身や施設の虐待リスクを確認し、その中で不安やストレス要因についても共有し、職員の負担の軽減につなげた。

やまばと園において、中途採用職員へのＯＪＴを丁寧に行った。

障害者支援センター御所野において、業務改善チームを結成し、職員主体で問題解決に取り組む体制を構築するとともに、自由でフラットな意見交換の場となるよう、ワールドカフェ方式を取り入れた。

・専門性の高い人材の育成について

高清水園において、事例検討会を立ち上げ支援アドバイザーと連動した仕組みを作り上げ、専門的な知識を学びながら事業所全体で課題解決を行う仕組みに取り組んだ。

支援センター御所野において、高次脳機能障がいの基礎知識をテーマとした研修を実施し、障がい特性に応じた適切な支援方法への理解を深めた。

南部老人福祉総合エリアにおいて、部門を横断した職員研修を通して支援の振り返りを行い、支援のスキル向上と基本理念の確認を行った。

③　地域との連携による支援の質の確保について

障害者支援施設やグループホームで義務化となる地域連携推進会議を開催し、地域の関係者を含む外部の目を定期的に入れる取組を義務化に先んじて実施した。

（２）　利用者の安心・安全の向上

①　虐待防止など権利擁護の徹底

事務局職員が事務局長の指示の下で現場に直接足を運び、支援場面の様子をよく見て不適切な対応が行われていないか把握する機会を引き続き設けた。訪問後に事務局職員が気付いた点をまとめ、その内容を各施設の職員と確認しあう機会を設けることで、日頃行っている支援の振り返りを行うことができた。

利用者虐待防止のための指針に基づいたマニュアルの理解と遵守、チェックリストによる振り返り、権利擁護に対する認識を深め情報共有を図ることを目的とした虐待防止責任者会議、家族会（保護者会）との意見交換の場やアンケート調査を実施した。支援現場の不適切支援に対する職員の意識が高まってきているため、虐待防止など権利擁護の徹底をより一層推進していくこととする。

②　苦情・要望への適切な対応

各施設で、定期的な満足度調査や意見箱の設置などを通して、利用者からの苦情や要望の収集に努めた。受け付けた意見等に対しては、迅速に対応し、改善策を実行するとともに、必要に応じて第三者委員からのアドバイスを参考に、利用者ニーズの実現に向けて取り組んだ。

③　感染症対策

標準的な感染症防止対策を継続実施し、感染症拡大防止のためＢＣＰに基づき訓練や研修を実施した。感染が発生した場合は直ちに利用者・家族等への情報伝達や利用の調整等、必要な対応を実施し、感染拡大防止に努めた。

２　地域とともに歩む施設づくり

（１）　地域における公益的な取組の推進

①　取組の推進

地域における様々な福祉課題や生活課題に積極的に関わりつつ、そうした課題の解決の一助となるよう、公益的な取組を行った。

感染症の影響で一部中止や延期となった活動もあったが、概ね予定通り実施することができた。地域の方と利用者との良い交流の場にもなっており、今後も関係機関や地域住民に対する周知を図りながら、取組の輪を広げていく。

（２）　地域生活を支える支援（セーフティネット）

①　地域生活拠点の整備

心身障害者コロニーにおいて、由利本荘地域に障がい者グループホームを新たに建設し、併せてグループホームの再編整備を行い、利用者の意思

を尊重しながら施設移行等を進めた。引き続き地域生活を継続できるような体制整備に向けて、関係機関との連携を図りながら取り組む。

②　地域生活支援サービスの提供

高清水園において、相談支援事業所と連携し、日中事業所との新たなマッチング支援７名、単身生活への移行支援１名、一般就労への移行支援２名実施した。

由利本荘地域生活支援センターの就業・生活支援センターにおいて、事業所として求められた職員体制の見直しによる体制整備を行うとともに、地域ニーズへの積極的関与として、関係機関からの意見要望等の聞き取りと調整に努めた。

（３）　利用者と地域住民との交流促進

①　交流機会の設定

感染症の影響もあったが、利用者と地域住民が交流するイベントを開催することができた。

心身障害者コロニーにおいて、地域の小学校の総合的な学習を受け入れ利用者との交流を図った。

高清水園において、環境美化活動に地域へ参加を呼びかけた。学生ボランティアの参加があり、交流も兼ねて活動することができた。

障害者支援センター御所野において、地域の中学校の職場体験学習を受け入れ、利用者と交流を図った。

３　職員がやりがいを持って働ける職場づくり

（１）　多様で良質な福祉人材の確保

①　職員採用方法の確立

今年度は従来の集合型の採用試験を実施しながら、他の実施方法を情報収集し検討を行い、令和７年度からは教養試験・適正検査等をオンラインで実施し、面接試験はこれまでの集合型で行うこととした。

また、これまでの大学・短大・専門学校・高等学校との継続的な関係構築に加え、採用実績のある学校等との新たな関係を構築し、ＰＲ活動を行った。

②　スピーディな情報発信

各施設から行事や日常生活におけるタイムリーな情報を集め、ＳＮＳで発信する取組を始めたほか、ホームページをリニューアルし、より魅力が伝わりやすいサイトを構築した。

さらに、学生の採用活動の早期化を受け、令和７年度より大学３年生を対象としたサイトの運用を行い、インターンシップ、就業体験、オープンカンパニー等を通じ事業団の理解を深めるイベントを開催することとした。

③　インターンシップの充実

インターンシップを受け入れながら、学生がこの機会を通じ、福祉業界や職場の理解に加え、自身のスキルアップにつながる内容を求めているといった動向を掴むことができた。令和７年度は当該プログラムに、学生の傾向をどのように組み込んでいくのか検討し実施することとした。

④　契約職員確保のための取組

契約職員のリクルートサイトを構築しつつ、様々な情報発信機会に積極的に参加した。秋田県内ではハローワークを通じた転職活動がいまだ多く、ハローワークへの切れ目がなく、複数回の情報掲載が重要であることが分かった一方で、施設によっては適切な時期に掲載されていない等の課題も

あり、連携体制構築は引き続きの課題となった。

（２）　事業団の将来を担う中核的な人材の育成

①　キャリアパスの充実

毎月各施設から月別研修実施報告書を提出してもらい、事務局職員が一括でデータ管理を行うことが定着し、研修ごとの受講者リストや資格・認定・加算対象研修修了者の把握がスムーズになった。

また、法人単独で実施しているキャリアパス体系に基づいた福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程は、中堅職員コースと管理職員コースを実施し、初任者コースとチームリーダーコースはフォローアップ研修を実施した。フォローアップ研修について、今年度の構成を基本としつつ、各コース担当講師が内容を具体化していくこととし、キャリアパス研修の内容や進め方、課題点を検証していくこととする。

②　強度行動障がいに対する支援強化

重度障害者支援加算の拡充により、強度行動障害支援者養成研修（実践研修）修了者が作成した支援計画シート等により適切な支援を行うことが必須となった。法人内で研修修了者の連絡会を開催し、各施設で作成を進めてきたが、アセスメントの強化等に課題を残すこととなった。今後は、支援計画シート等に係る様式の精度を高め、利用者の状態や環境の変化等に対応できる支援体制の構築を図る必要がある。

また、強度行動障がいを有する方に対し、適切な支援を行う体制づくりの強化における中核的人材を確保するため、その調査・研究、支援者の育成や研修を総合的に行っている国立のぞみの園へ職員１名を派遣した。学んだことに対して年２回の報告会を実施し、１２月の実践発表会で実践報告として全施設の職員に対して発表の機会を設けた。

さらに、職員１名が国立のぞみの園で実施する中核的人材養成研修を修了し、専門的人材の養成に努めた。

③　将来を見据えた資格取得者の計画的確保

サービス管理責任者、相談支援専門員、介護支援専門員など施設運営上欠くことのできない資格を有する職員について、受講人数に制限があることを念頭に、世代間バランスや職員の希望するキャリアパスなどを総合的に勘案し、計画的な人材育成を図った。

④　メンター制度の実施

メンター制度を実施し、新規採用職員１３名に対し事務局職員が３回の面談を行った。加えて２年目も継続を希望する職員１名にも対応した。直接の上司であるＯＪＴリーダーと連携を図りながら、仕事上の悩みや不安の解消を目的としてメンタル面のサポートに取り組んだ結果、対象職員からは、定期での面談の機会が終了となることに対して寂しさを感じる、不安の解消につながった、との声が聞かれ、制度に対する良い評価を得ることができた。

自分の思い描いていた業務内容とのギャップやストレスを抱えている職員の状況も垣間見え、悩みを吐き出す場として制度が活用されるよう、アプローチの方法やサポート体制を適宜見直し、今後もより制度の充実化を図っていく。

（３）　多様な働き方の検討と職場環境の向上

①　人事労務管理体制の強化

規則の説明機会を設け、新たな休暇や育児・介護を目的とした様々な制度について周知を行うとともに、両立支援パンフレットを更新し、職員への制度周知も同時に行った。労使双方が働きやすい職場環境を実現するため、風通しの良い環境づくりを引き続き積極的に実践していく。

② 多様な働き方の検討

支援現場の事務的な業務の一端を担うため、一部施設において事務員を配置のうえ検証し一定の効果を確認したが、支援における人手不足を補うまでには至らなかった。今後は、ＩＣＴ機器を試行導入し、支援現場において業務とマッチングできるのかを検証することに注力することとした。

③ ラインケアとハラスメント対策の強化

職員のメンタルヘルスへの継続的なアプローチにより、メンタル不調の職員は減少傾向にある。一方で、メンタル不調の主な要因として、日頃のコミュニケーション不足を起因とする事例が目立っていることから、より一層各種制度についての丁寧な説明等、職員に配慮した制度運用に努める。

（４） 業務改善に向けた取組

① 業務におけるＩＣＴの活用

会議録の音声による文字起こし及びチャットＧＰＴによる要約など一定の効果がある機器を選定したものの、同時に業務フローの見直しが不可欠であることも分かってきた。令和７年度は業務フローの見直し、その他バックオフィス業務のＩＣＴ化に加え、ベッドセンサー、服薬支援システム、各種入力様式の統一等現場に密着した業務の効率化に取り組む。

② グループウェアの積極的運用

業務効率化の一環としてグループウェアの機能のうち、文書収受、起案用紙の作成、電子回覧を全職員が行うことができるよう体制整備を行い、令和７年度から実施することとした。

また、引き続きグループウェアで可能な業務の検討を進めながら、その他報告や申込み手続き等簡便な業務の電子決裁化の検討も進める。

４ 自立し持続可能な経営基盤づくり

（１） コンプライアンスの徹底

① コンプライアンス教育

社会的な規範やモラルを守りつつ、関係法令を遵守し、公益的かつ信頼性の高い経営を実現するため、個人情報保護に係る研修、福祉関係法令、虐待防止法、障害者差別解消法等のコンプライアンス教育を実施した。

（２） 自立的な経営を支える財務基盤の確立

① 基本姿勢

財務指標等に基づき法人全体、各施設、事業ごとの経営状況を把握し、経営分析を行った。

社会福祉法人としてより安定した事業継続を図るため、事業の見直しを行い、再編整備等を行った。

② 事業の見直し

将来にわたり持続的・安定的な福祉サービスを提供していくため、事業の見直しとして、阿桜園放課後等デイサービス事業を２か所から１か所へ統合した。

心身障害者コロニーで運営するグループホームでは、地域での安心・安全な生活を望む利用者ニーズに応えるため、老朽化したグループホームとサポートセンターを新築し、令和７年２月に移転し事業を開始した。

また、グループホームでは利用者の減少により欠員が続いていたため、再編整備を行った。

③ 補助制度の効果的活用

心身障害者コロニーグループホーム建設に係る社会福祉施設等施設整備費補助金の交付を受けた。

また、秋田県や各市町村から物価高騰等に伴う事業費補助金の交付を受

けた。

④　県有施設の今後の在り方

県から土地・建物の無償貸与を受け、当法人が運営している心身障害者コロニーについては、県が主体となり、有識者による施設整備検討会が開催され今後について一定の方向性が示された。ただし、施設整備時期は未定のため、現在、老朽化している施設の埋設高圧ケーブルや給湯配管設備等の大規模修繕が令和７年度以降に行われることになった。

また、南部老人福祉総合エリアについては、秋田県や横手市等の関係機関と今後のあり方について協議を行い、養護老人ホームが令和７年度末以降を目途に廃止されることになった。入居者の方及び家族の方へは２月中に説明会を行い、４月以降は近隣の養護老人ホーム等へ順次転居（措置変更）の手続きを進めることになった。

（３）　効果的な改修による施設の長寿命化と計画的な改築等

①　将来を見据えた施設整備

県から譲与された高清水園及び阿桜園については、長寿命化を図るため、専門家からのアドバイスを踏まえ、屋根及び厨房等の大規模改修計画を策定し、順次修繕を進めていくことになった。

②　事業展開積立金

高清水園及び阿桜園の大規模修繕のため、修繕積立金に３億円の積立を行い、また、老朽化した固定資産や備品等の将来の更新に備え、備品等積立金に約１億８千万円の積立を行った。

Ⅱ　施設別の概要

秋田県北部老人福祉総合エリア

重点的な取組

①利用者増に向けたＰＲ活動の展開

・新規顧客となり得る「子育て世代」を主なターゲットとしてＳＮＳ（「Ｘ」、「インスタグラム」）により随時、情報発信を行い、イベントや各種優待プラン等のＰＲに努めた。また、世代間交流や地域活性化を目的にゴールデンウイークやお盆期間及び閑散期である２月にイベントを開催し、子供連れの家族を中心に多くの方が来館され大盛況だった。

・道の駅や観光施設、公民館等へイベントポスターを掲示したほか、秋田魁新報や北鹿新聞へ健康づくり教室やイベント開催情報を掲載し利用者獲得に努めた。また、大館市報や地区広報（十二所だより）へ毎月各種教室など事業の情報を掲載し周知に努めた。

・「休憩・入浴」部門の利用促進を図るべく新たな優待サービス等を企画、実施し、館内へのポスター掲示やＳＮＳで周知に努めた結果、前年度と比較し大幅な利用増加につなげることができた。

②健康増進・生きがいづくり事業の充実

・地域包括支援センター「おおたき」との共催による健康教室を実施したほか、健康づくり教室（リズムエクササイズ・パンチでエクササイズ・ピラティス）を春と秋の２回実施した。また、高齢者の健康増進や相互交流を目的にグラウンド・ゴルフ大会を６月・１０月に、ユニカール交流会を７月・１１月に各協会の協力を得ながら開催した。

・生きがいづくり教室として、定期的（週３回）に木工教室を開催した。また、自主サークルである「陶芸サークル」の活動が維持できるよう協力した。

・世代間交流事業（さつまいも苗植え・収穫：市内８保育園）を実施し、園児と在宅高齢者との相互交流を図ることが出来た。

③利用者サービスの充実・利用者満足度の向上

・利用者満足度調査や宿泊者アンケート調査を実施し、利用者意見や要望等について対応可能なものは即時に対応し、利用者サービスの向上に努めた。

・「秋田県観光連盟」等が主催する各種研修等に参加し職員の資質向上を図った。

④設備等のチェックと早期改善に向けた対応

・技師２名による建物、設備等の日常点検に加え委託業者による専門的な保守、点検作業を実施し、不良個所の早期発見と修理を実施した。また、職員の定期巡回時に目視等による確認を行い、廊下の水濡れなどの危険個所が無いか安全点検に努めたほか、浴室内の整理整頓を行うなど転倒等の事故防止につなげた。

北部エリアの利用状況

１．コミュニティセンターの利用状況

単位：人

区分		年間合計（人）		比較増減
		令和６年度	令和５年度	
有料	休憩	30,252	27,539	2,713
	宿泊	2,665	2,521	144
	会議室等	2,487	2,395	92
	屋内運動広場	776	695	81
	テニスコート	1,672	1,590	82
	各種自主事業等	905	673	232
	小計	38,757	35,413	3,344
無料	屋内運動広場	15,043	15,132	△ 89
	屋外運動施設等	1,581	1,543	38
	各種自主事業等	10,045	8,305	1,740
	視察等	26	108	△ 82
	小計	26,695	25,088	1,607
合計		65,452	60,501	4,951

２．各種教室・講座の利用状況

（　　）内は開催回数

区分			令和６年度	令和５年度	比較増減
生きがい活動	有料	陶芸	0（ 0 ）	0（ 0 ）	0（ 0 ）
		木工	454（ 134 ）	394（ 82 ）	60（ 52 ）
		園芸	0（ 0 ）	6（ 2 ）	△ 6（ △ 2 ）
		茶道	0（ 0 ）	0（ 0 ）	0（ 0 ）
		その他の教室	451（ 36 ）	273（ 39 ）	178（ △ 3 ）
		小計	905（ 170 ）	673（ 123 ）	232（ 47 ）

区分			令和６年度	令和５年度	比較増減
健康づくり	有料	スポーツ大会等	336（ 4 ）	335（ 4 ）	1（ 0 ）
		小計	336（ 4 ）	335（ 4 ）	1（ 0 ）
交流活動	無料	交流イベント等	5,205（ 25 ）	4,154（ 29 ）	1,051（ △ 4 ）
		小計	5,205（ 25 ）	4,154（ 29 ）	1,051（ △ 4 ）
その他		映写会	1,753（ 144 ）	1,629（ 147 ）	124（ △ 3 ）
		無料開放	138（ 2 ）	15（ 2 ）	123（ 0 ）
		ポイントカード等	2,613（ 12 ）	2,172（ 12 ）	441（ 0 ）
		小計	4,504（ 158 ）	3,816（ 161 ）	688（ △ 3 ）
合計			10,045（ 187 ）	8,305（ 194 ）	1,740（ △ 7 ）

３．利用状況の推移

単位：人

年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度
年間利用者数	39,742	44,465	43,576	60,501	65,452

秋田県中央地区老人福祉総合エリア

重点的な取組

①利用者増に向けた事業活動及びＰＲ活動の展開

・「エリアだより」を毎月作成し、各市民サービスセンターへ配布・御所野町内へ回覧依頼するとともに、ホームページや中央エリアバス停ポスターケースを利用してエリアの事業の周知に努めた。
・休憩入浴利用者増に向けて、毎月第２水曜日は休憩入浴割引デーとして終日割引でご利用いただいた。
・昨年度に引き続いてエリア感謝祭を実施した。今年度はコロナ禍以前の規模で実施した。天候に恵まれ屋内外でのイベントが盛況であり、子供連れの家族を中心に好評を得た。
・健康づくり事業は「運動」をテーマにして「自宅でできる腰痛対策講座」を実施した。終始楽しい雰囲気で行われ、参加された方々からも好評を得た。
・空調更新工事後の休憩入浴利用再開に伴い、２月１日から２月５日にかけて休憩入浴利用の料金割引とガラポン抽選会を実施した。景品が当たって喜ぶお客様も見られ、大変好評を得た。
・協賛イベントとして、ミニ四駆団体とのミニ四駆大会を年４回、多目的ホールにて実施した。

②健康増進・生きがいづくり事業の充実

・健康と身体機能の維持を目的として、各種教室に若年から高齢の方まで幅広い世代の参加があり、楽らく体操・太極拳教室は定員を超える申し込みがあるほどの人気を得た。
・世代間交流事業として、ごしょの保育園児・かわしり保育園児・ウエルハウス御所野入居者の方々による、さつまいもの苗植え及び収穫を行い交流を深めた。

③利用者サービスの充実・利用者満足度の向上

・アンケート用紙を館内２カ所に設置したほか、毎月第２水曜日の休憩入浴割引デーの際、エントランスにアンケートに回答しやすいようテーブルや椅子を設置し、満足度調査を実施した。
　寄せられた意見は職員間で共有するとともに、苦情解決処理委員会で報告した。第三者委員からの意見や助言のもと再検討を行い、お客様へのサービス向上に努めた。
・こどもの日は休憩入浴料金を終日割引、県民の日と敬老の日は緑地運動広場の無料開放を行い、利用者のサービス向上に努めた。

④設備等の維持管理

・建築基準法や各法令に基づき、職員による自主点検や業務委託による保守点検を実施した。建物や設備等の経年劣化が主因の故障や破損があり、利用者保護を最優先とし事故の未然防止に努めた。改修中のプールを含め、規模の大きな修繕等については所管の秋田県へ点検報告や修繕要望を行った。
・令和６年１１月１８日から令和７年１月３１日にかけて宿泊室系統の空調更新工事を実施した。工事期間中は、宿泊及び休憩入浴利用を休止した。

中央エリアの利用状況

１．コミュニティセンターの利用状況

※単位 ： 人

区分		年間合計（人）		比較増減
		令和６年度	令和５年度	
有料	休憩	28,824	34,750	△ 5,926
	宿泊	1,767	2,144	△ 377
	会議室等	20,374	16,933	3,441
	屋内運動広場	21,944	24,921	△ 2,977
	緑地運動広場	2,459	2,993	△ 534
	陶芸室等	1,902	2,318	△ 416
	プール	0	0	0
	休憩＆プールセット	0	0	0
	各種自主事業等	4,762	2,458	2,304
	小計	82,032	86,517	△ 4,485
無料	屋内運動広場	2,304	1,687	617
	屋外運動施設等	179	187	△ 8
	各種自主事業等	358	686	△ 328
	視察等	0	3	△ 3
	小計	2,841	2,563	278
合計		84,873	89,080	△ 4,207

２．各種教室・講座の利用状況

※単位 ： 人 （ ）内は開催回数

区分			令和６年度	令和５年度	比較増減
有料	生きがい活動	陶芸	401 (64)	478 (51)	△ 77 (13)
		フラワー	0 (0)	0 (0)	0 (0)
		茶道	99 (24)	119 (24)	△ 20 (0)
		その他の教室	141 (6)	133 (5)	8 (1)
		小計	641 (94)	730 (80)	△ 89 (14)
	健康づくり活動	太極拳	456 (33)	365 (32)	91 (1)
		コアトレEX	266 (32)	266 (29)	0 (3)
		はつらつくらぶ事業	0 (0)	0 (0)	0 (0)
		健康づくり事業	537 (56)	442 (44)	95 (12)
		小計	1,259 (121)	1,073 (105)	186 (16)
	その他	イベント等	2,941 (1)	655 (1)	2,286 (0)
		小計	2,941 (1)	655 (1)	2,286 (0)
合計			4,841 (216)	2,458 (186)	2,383 (30)

有料	健康	水泳教室	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合計			0 (0)	0 (0)	0 (0)

区分			令和６年度	令和５年度	比較増減
その他	無料	ポイントカード	246 (246)	300 (300)	△ 54 (△ 54)
		無料開放等	19 (2)	94 (2)	△ 75 (0)
		ボランティアルーム	93 (7)	292 (20)	△ 199 (△ 13)
合計			358 (255)	686 (322)	△ 328 (△ 67)

3．利用状況の推移

※単位:人

年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度
年間利用者数	100,698	92,585	77,355	89,080	84,873

秋田県南部老人福祉総合エリア

ハイクオリティサービス推進システム（理事長マネジメントレビュー）

①事業継続計画の周知及び訓練・研修等の実施について

・外部講師を招き防災や感染症に関する研修を実施し、地震や感染症の発生を想定した訓練を行った。これらの取り組みにより周知を徹底するとともに、令和６年７月下旬の大雨の際には、事業継続計画に基づいて迅速かつ的確に対応した。また、関連するマニュアルの整備も継続して行った。

②職員定着の取組について

・管理職との面談を通じて職員のやりがいを引き出し、勤務体系に柔軟性を持たせることで、働きやすい環境づくりに努めた。またエリア内にある健康の駅・西部トレーニングセンターを活用し、身体を動かす機会を提供してストレスの軽減に取り組んだ。

③専門性の高い人材の育成について

・認知症に関する研修や介護支援専門員研修等を受講し、高齢者支援のスキルアップに努めた。また部門を横断した職員研修を通して日々の支援の振り返りを行うことで、職員個々の支援スキルの向上と基本理念の確認を行った。

重点的な取組

①南部エリアの今後の在り方に関する協議について

・養護老人ホームについては、８月と１１月に開催されたあり方協議会で廃止の方向性について確認し、県南地区の養護老人ホームと調整を進めながら受け入れ態勢を協議した。その上で、利用者及び家族に対して２回の説明会を開催し、個別の説明要望にも丁寧に対応した。

・３月には関係施設との面談や横手市担当課職員による聞き取りを実施し、令和７年度から開始する措置変更に向けた準備を整えた。

②利用者の安心、安全の向上について

・高齢者虐待防止や身体拘束廃止など権利擁護に関する取組として、職員一人ひとりの支援に向かう姿勢についてチェックリストによる調査とアンケートを基にした振り返り、意見交換を行うことで更なる意識の向上に努めた。

・事業継続計画（ＢＣＰ）は、５月に６年度の改訂を実施し、６月に自然災害を想定したＢＣＰ訓練、１０月に感染症患者発生時の対応を想定したＢＣＰ訓練、１１月には防災アドバイザーを招いた研修を行った。さらに、７月には大森地区で雄物川の氾濫危険が高まったことによる避難指示を受け、臨時防災会議を開催するなど、自然災害や感染症など緊急事態への対応力を高める取組を行った。

③コミュニティセンター機能の充実

・地域住民の福祉向上及びコミュニティ活動の促進に資する多様な事業を実施した。そのなかでも、５年ぶりの開催となった健康の丘おおもりまつりは、横手市との共同主催により地域住民の交流を活性化する機会となった。本催事では、歌や踊りのステージ、地元ヒーローショー、並びにミニクラフト展を実施し、多くの住民が参加することで地域コミュニティの結束を強化する場となった。

また、生涯学習活動である活き活き学園は、文化・スポーツ活動を通じて参加者の生きがいづくりを支援し、特に秋の祭典では多数の作品展示が行われ、来館者から高い評価を得た。一方で、講師及び参加者の高齢化が課題として浮上しており、今後は若年層の参加促進に向けた取組が求められる状況となっている。

さらに、休憩・入浴施設の利用状況においては、利用者数が前年度比で１０％増加し、新型コロナウイルス感染症の影響からの回復傾向が見られた。情報誌への広告掲載等による新規利用者の獲得を図るとともに、リピーターの定着及び地域住民の利用促進を目的とした施策が一定の成果を上げている。

養護老人ホーム

①高齢化・重度化への対応

・利用者の身体状況や介護度に変化が生じた際はケース検討を行い、状態に応じた介護サービスや福祉用具の利用、居室内環境の整備に努めた。その際は居宅支援事業所へ相談する等関係機関とも連携を図り、利用者が安心・安全に過ごせるよう対応した。

・要介護３となった利用者については家族へ報告し、将来を見据えて介護施設への入所申込みを検討していただいた。その場合も居宅支援事業所のケアマネージャーから直接家族へ介護施設の紹介等をしてもらうことで、不安なく方向性を選択できるよう対応した。

②事業の方向性への対応

・養護老人ホーム廃止に向け、利用者及び家族へ文書による通知を行うとともに、説明会を開催した。また、行政や受入れ予定の施設とも密に連絡調整し、受入れ先の施設とは相談員同士が行き来して情報を共有した。また、今後の移行の進め方やスケジュールについて協議を行い、３月からは受入れ施設の職員が来所し、利用者との面談を始めている。

軽費老人ホーム

①安定した運営

・ＰＲ活動の充実には至らなかったが、関係機関と連携しほぼ受入れ可能な利用人数に達した。今年度は一般利用から特定施設入所者生活介護事業の利用へ至る利用者が４名ありスムーズな移行が図られた。

・節電節水への取組や特定施設入所者生活介護事業利用者の日常生活に係る消耗品の本人負担を重要事項説明書に基づき見直した。

②安全で安心できる生活の提供

・権利擁護や認知症の理解について研修を行い職員のスキルアップを図った。また職員間で介護報酬や制度について情報共有し、業務改善について一人ひとりが役割をもち、業務に取り組むことができるよう検討する機会を持つことで利用者支援への意識の向上を図った。

・福祉用具の使用や見直しを速やかに行い、利用者の安全な移動、生活空間の環境整備を行った。

③職員の維持・確保

・相談員や介護支援専門員の役割分担の明確化や業務内容の見直しを継続的に行い働きやすい環境づくりに努めた。

・職員が休暇取得しやすい職場環境づくりに努めた。

老人専用マンション

・令和５年度末で利用者全員の転居が完了しており、今年度末で廃止となった。

居宅支援センター

指定居宅介護支援事業所

①安定した運営

・利用延べ人数については、前年度比で増となった。
・認定調査についても、更新だけでなく、区分変更申請等の依頼もあり、積極的に受託することで、前年度比で増となった。

②サービスの向上に向けた取組

・満足度調査の結果では、介護サービスを利用して身体の状態が改善された、やや改善されたとの回答が多数を占めていたことから、より良いサービスの向上につながったことが確認できた。
・利用者を主体として自立支援に向けたケアプランを作成し、モニタリングを通して目標達成ができるよう努めた。
・中立にサービス提供ができるよう努め、前期、後期とも特定事業所集中減算では８０％を超えることなく事業を行った。

③事業所等との連携の強化

・地域ケア会議や各種研修に参加し、地域課題の抽出や各関係機関との情報交換や連携を図ることができた。
・毎月、居宅支援センター会議、施設との連絡会を開催し、意見交換や情報共有ができた。

指定訪問介護事業所

①サービスの向上に向けた取組

・毎月居宅支援センター会議を開催し、ケアプランに沿ったサービス提供ができているかを確認した。また、より良いサービス提供のため３か月ごとにケアカンファレンスを開催し、利用者が快適で自分らしい生活が送れているか、ケアプランが利用者のニーズに合ったものか確認した。
・満足度調査を実施し、利用者の評価と要望に対し速やかに対応し、提供するサービスの質の向上に努めた。
・施設内の研修に参加できるよう勤務を調整し、積極的に参加することで、介護技術や知識の向上を図り、質の高いサービス提供体制の構築に努めた。

②事業所との連携の強化

・毎月施設との連絡会を開催し、利用者の情報を共有することで、利用者のニーズに対応したサービスを提供することができた。
・各居宅支援事業所へは毎月モニタリング票で利用者の情報を提供し、サービス提供で変化があった場合は、速やかに情報を提供した。

南部エリアの利用状況

１．コミュニティセンターの利用状況

単位：人

区分		年間合計（人）		比較増減
		令和６年度	令和５年度	
有料	休憩	10,377	9,950	427
	宿泊	601	525	76
	会議室等	57	25	32
	屋内運動広場	899	1,142	△ 243
	プール	6,288	6,800	△ 512
	セット券	91	75	16
	各種自主事業等	1,647	1,849	△ 202
	小計	19,960	20,366	△ 406
無料	屋内運動広場	17,893	19,550	△ 1,657
	屋外運動施設等	2,937	2,552	385
	各種自主事業等	11,140	9,986	1,154
	視察等	9	58	△ 49
	小計	31,979	32,146	△ 167
合計		51,939	52,512	△ 573

２．各種教室・講座の利用状況

（　　）内は開催回数

区分			令和６年度	令和５年度	比較増減
生きがい活動	有料	陶芸	1,231（ 239）	1,133（ 243）	98（ △ 4）
		民芸	150（ 23）	116（ 22）	34（ 1）
		水泳	702（ 61）	642（ 48）	60（ 13）
		茶道	72（ 10）	86（ 11）	△ 14（ △ 1）
		その他の教室	1,115（ 107）	1,378（ 129）	△ 263（ △ 22）
		小計	3,270（ 440）	3,355（ 453）	△ 85（ △ 13）

区分			令和６年度	令和５年度	比較増減
健康づくり	有料	スポーツ大会等	224（ 5）	214（ 5）	10（ 0）
		小計	224（ 5）	214（ 5）	10（ 0）
交流活動	無料	交流イベント等	2,654（ ）	2,234（ ）	420（ 0）
		小計	2,654（ 0）	2,234（ 0）	420（ 0）
その他		映写会	283（ 23）	318（ 24）	△ 35（ △ 1）
		無料開放	0（ 0）	0（ 0）	0（ 0）
		ポイントカード等	55（ ）	26（ ）	29（ 0）
		小計	338（ 23）	344（ 24）	△ 6（ △ 1）
合計			3,216（ 28）	2,792（ 29）	424（ △ 1）

３．利用状況の推移

単位：人

年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度
年間利用者数	35,918	47,219	47,656	52,512	51,939

南部エリアの利用状況

１．利用者数（契約者数）

単位：人

種別	R6.3.31		R7.3.31		R6.4～R7.3	
	定員	利用者数	定員	利用者数	延利用者	利用者／日
養護老人ホーム	50	39	50	35	13,082	35.8
軽費老人ホーム	50	45	50	47	16,366	44.8
内　特定入居者生活介護	30	24	30	26	9,056	24.8
老人専用マンション	24	0	24	0	0	0.0

２．利用者の状況（令和７年３月３１日現在）

（１）養護老人ホーム

介護度区分	要支援１	要支援２	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男	0	1	2	4	1	0	0	8
女	2	1	3	9	5	1	0	21
計	2	2	5	13	6	1	0	29

年齢	60～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95歳～	計
男	1	2	4	2	2	1	0	12
女	1	0	3	3	6	8	2	23
計	2	2	7	5	8	9	2	35

（２）軽費老人ホーム

介護度区分	要支援１	要支援２	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男	1	2	5	3	0	0	0	11
女	2	7	8	4	1	1	0	23
計	3	9	13	7	1	1	0	34

年齢	60～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95歳～	計
男	1	0	1	4	2	6	2	16
女	0	2	2	3	10	12	2	31
計	1	2	3	7	12	18	4	47

（３）居宅支援サービス

種　　別	R6.4～R7.3延件数
指定居宅介護支援事業	987
指定訪問介護事業	6,332

高清水園

ハイクオリティサービス推進システム（理事長マネジメントレビュー）

①事業継続計画の周知及び訓練・研修等の実施について

・全提供サービスにおける事業継続計画の作成を完了したほか、全職員に対する計画の周知と法制度に基づいた研修、訓練を実施した。

②職員定着の取組について

・求人掲載のみに限らず、秋田公共職業安定所求人部門紹介係、紹介第二部門求人者支援員と連携し、求人問合せ者等に対して直接アプローチする体制を確立したことにより、支援員２名の採用確保に至った。

③専門性の高い人材の育成について

・直接支援に関わる職員（４６名）がＷＥＢ研修を受講する機会を設け、毎月テーマにそった動画を視聴しレポートを提出。管理権限者（４名）がフィードバックを行うことで、障がい福祉に関わる知識を深めることにつなげた。

重点的な取組

①利用者の【特性】への対応

・専門性の高いＷＥＢ研修やセミナーに参加し、核となる職員の実践につなげることができる知識を得た。
・今年度より事例検討会を立上げ支援アドバイザーと連動した仕組みを作り上げ、専門的な知識を学びながら事業所全体で課題解決を行う取組を実行した。

②地域生活基盤の安定に向けた支援の継続

・相談支援事業所と連携し、日中事業所との新たなマッチング支援７名、単身生活への移行支援１名、一般就労への移行支援２名となった。
・環境美化活動は園及びＧＨの近辺について各１回実施した。地域への声かけにより学生ボランティアの参加が得られ、交流も兼ねて活動することができた。
・関係機関へのＰＲにより、入居の問い合わせ３件、体験入居者１名、ＧＨの見学者２名があったが、入居には至らなかった。

③人材育成

・外部研修受講者が講師となって事業所内研修の開催を計画した。実施には至らなかったものの、事例検討会での学びやグループワークを通じて他者の意見を聞いたり協議することでスキルの向上を図った。

④業務の効率化

・今年度より業務改善効率化委員会を立ち上げ、効率化に向けた意見やアイディアを実施すべく協議の場を設けた。年度途中に既存の委員会へ統合させ、課題に対してスピーディな効率化が実施できるように改善した。

⑤法制度にそった研修・訓練の実施

・日本赤十字東北看護大学との「洪水被害発生における臨時的避難場所の提供等に関する協定」を令和６年４月に締結し、災害発生時の避難活動における地域連携体制を構築した。併せて同協定に基づいた日中洪水避難想定の合同訓練を２回実施した。

高清水園の利用状況

１．利用者数（契約者数）

単位：人

種別	R6.3.31		R7.3.31		R6.4～R7.3	
	定員	利用者数	定員	利用者数	延利用者	利用者／日
施設入所支援	88	81	88	80	28,788	78.9
生活介護	92	92	92	88	21,960	60.2
共同生活援助（GH結）	5	5	5	5	1,678	4.6
共同生活援助（GHみのり）	5	4	5	5	1,678	4.6
共同生活援助（GHさくら）	5	4	5	4	1,343	3.7
共同生活援助（GHあおぞら）	5	5	5	5	1,770	4.9
共同生活援助（GHこまち）	4	4	4	4	1,459	4.0
共同生活援助（GHあすか）	4	3	4	3	1,091	3.0
短期入所	8	－	8	－	279	0.8

種　　別	R6.4～R7.3延件数
相談支援（児童含）	850
日中一時支援	68

２．利用者の状況（令和７年３月３１日現在）

（１）施設入所

支援区分	無	1	2	3	4	5	6	計
男	0	0	0	0	2	13	37	52
女	0	0	0	0	0	9	19	28
計	0	0	0	0	2	22	56	80

年齢	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳～	計
男	7	9	21	15	0	0	0	52
女	5	7	9	4	3	0	0	28
計	12	16	30	19	3	0	0	80

（２）グループホーム

支援区分	無	1	2	3	4	5	6	計
男	1	0	2	3	2	2	1	11
女	5	0	1	3	3	1	2	15
計	6	0	3	6	5	3	3	26

年齢	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳～	計
男	0	4	5	2	0	0	0	11
女	1	6	5	2	1	0	0	15
計	1	10	10	4	1	0	0	26

秋田県心身障害者コロニー

ハイクオリティサービス推進システム（理事長マネジメントレビュー）

①事業継続計画の周知及び訓練・研修等の実施について

・７月に豪雨災害発生、感染症の集団発生は１年を通して新型コロナ・インフルエンザ感染症併せて５件発生した。都度、事業継続計画（ＢＣＰ）を運用し、各マニュアルに合わせて対応した。

②職員定着の取組について

・新任職員に対しては研修やＯＪＴ、メンター制度を通して個別面談等行った。虐待防止対策として、グッドジョブシートの活用により支援等に係る良い取組を周知し職員のモチベーション向上及び風通しの良いフォローし合える関係づくりに努めた。

③専門性の高い人材の育成について

・法人研修や、事業所内研修のほかに、課別研修や寮内研修などを実施し、利用者の実態に合わせた研修を取り入れた。
・ＤＶＤ等の動画研修を取り入れ、個人でも研修できる体制を工夫した。

重点的な取組

①虐待防止・権利擁護の徹底

・虐待防止と身体拘束廃止に関する理解と意識を深めるため、自己チェックシート等への記入や年２回の虐待防止チェックリストにより、課題を出し研修を実施した。第三者委員・保護者代表・利用者代表による支援現場への視察、利用者と現場支援員との意見交換等を行い、地域の目や利用者の意見などを取り入れた。

②より良いサービス提供体制の確立

・利用者の疾病や身体状況、個性等を考慮し、利用者及びご家族へサービス提供について丁寧な説明を行い、医療・関係機関と連携しながら、ご理解ご承諾のもと寮移行並び施設移行を実施した。
・強度行動障がい、行動障がい専用棟内に日中活動場所を設置。メリハリのある生活リズムの確立を図るとともに、他寮の利用者の活動の場所として活用することができた。
・就労継続支援Ｂ型事業は高齢利用者の意思を尊重しながら身体状況に合わせた作業種への変更、生活介護への移行等を行った。地元の企業より新しい作業の受注を受け、天候に左右されない作業の獲得を図った。

③地域に根差したサービス体制の充実

・西目地区への新規グループホーム建設と併せて、本荘・西目地区のグループホームの再編整備を進め、グループホーム１９か所（定員９７名）を１８か所（定員９１名）に整備した。利用者へは丁寧な説明と意思を尊重しながら施設移行等を進めた。

④再編整備に向けた運営体制の構築

・コロニーに求められる新たな役割・機能を担う事業体系の構築、持続的且つ安定した運営体制の整備を図るため、再編整備検討会にて継続的な協議を行った。

⑤各種災害対策への対応

・７月の豪雨災害発生時には事業継続計画書（ＢＣＰ）を運用しながらも臨機応変に対応し、利用者・職員の安全確保に努めることができ、その内容等含め、今後の事業継続計画書（ＢＣＰ）の運用について、再確認・再構築することができた。

心身障害者コロニーの利用状況

１．利用者数（契約者数）

単位：人

種別	R6.3.31		R7.3.31		R6.4～R7.3	
	定員	利用者数	定員	利用者数	延利用者	利用者／日
施設入所支援	340	298	340	290	105,023	287.8
生活介護	350	281	350	285	72,923	199.8
就労継続B型	60	53	60	52	12,216	46.5
共同生活援助（GHわかまつ）	6	6	6	5	2,097	5.8
共同生活援助（GHやすらぎ）	6	6	5	5	1,869	5.2
共同生活援助（GHそよかぜ）	4	4	5	5	1,509	4.2
共同生活援助（GHはまなす）	4	4	4	4	1,441	4.0
共同生活援助（GHまつかぜ）	6	5	5	4	1,674	4.6
共同生活援助（GHしおさい）	5	5	5	4	1,762	4.9
共同生活援助（GHなでしこA）	5	4	5	4	1,450	4.0
共同生活援助（GHなでしこB）	4	4	4	4	1,455	4.0
共同生活援助（GHかもめ）	5	4	0	0	683	3.8
共同生活援助（GH御門A）	5	5	5	5	1,811	5.0
共同生活援助（GH御門B）	5	5	5	5	1,709	4.7
共同生活援助（GH清和A）	5	3	5	4	1,267	3.5
共同生活援助（GH清和B）	5	5	5	3	1,233	3.4
共同生活援助（GH朋A）	5	4	5	4	1,322	3.7
共同生活援助（GH朋B）	5	5	5	5	1,793	5.0
共同生活援助（GHめぐみ）	6	6	6	5	1,799	5.0
共同生活援助（GH菖蒲）	6	6	6	6	2,170	6.0
共同生活援助（GH若菜）	5	4	5	4	1,407	3.9
共同生活援助（GH虹）	5	5	5	5	1,453	4.0
短期入所	5	－	5	－	372	1.1

種　別	R6.4～R7.3延件数
日中一時支援	121

２．利用者の状況（令和７年３月３１日現在）

（１）施設入所

支援区分	無	1	2	3	4	5	6	計
男	0	0	1	5	30	55	67	158
女	0	0	0	2	19	32	79	132
計	0	0	1	7	49	87	146	290

年齢	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳～	計
男	23	13	22	27	17	37	19	158
女	4	5	12	19	20	49	23	132
計	27	18	34	46	37	86	42	290

※10代 4名を20代に含める

（２）グループホーム

支援区分	無	1	2	3	4	5	6	計
男	20	0	9	10	14	2	0	55
女	4	0	0	10	9	3	0	26
計	24	0	9	20	23	5	0	81

年齢	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳～	計
男	4	2	7	17	14	10	1	55
女	1	2	3	4	4	9	3	26
計	5	4	10	21	18	19	4	81

心身障害者コロニー診療所の利用状況

	年度		令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度
医科	診療日数		190日	224日	234日	239日	201日
	延べ受診者数	利用者	9,345人	8,186人	7,049人	7,277人	6,621人
		その他	113人	65人	62人	14人	8人
		計	9,458人	8,251人	7,111人	7,291人	6,629人
歯科	診療日数		90日	76日	73日	65日	86日
	延べ受診者数	利用者	731人	641人	564人	583人	665人
		その他	2人	0人	0人	0人	0人
		計	733人	641人	564人	583人	665人
計	診療日数		280日	300日	307日	304日	287日
	延べ受診者数	利用者	10,076人	8,827人	7,613人	7,860人	7,286人
		その他	115人	65人	62人	14人	8人
		計	10,191人	8,892人	7,675人	7,874人	7,294人

由利本荘地域生活支援センター

ハイクオリティサービス推進システム（理事長マネジメントレビュー）

①事業継続計画の周知及び訓練・研修等の実施について

・各部署への事業継続計画書の配布及び事業会議や委員会における読み合わせ等を行って周知を図るとともに、各種訓練を実施した。また、由利本荘市で発生した大雨発生時においては、施設からの避難行動を実践し、その際に判明した課題の洗い出しを行うことで、計画の改訂につなげた。

②職員定着の取組について

・年度を通して、所長と職員との面談の機会を適宜設け、様々な課題や要望の聞き取り、今後の取組などについての意見交換を行った。
・虐待防止の取組の一環として実施した面談では、職員一人ひとりが感じている自分自身及び施設における虐待リスクについて確認する中で、職員が抱えている不安やストレス要因についても共有し、職員の負担軽減に努めた。
・人事ヒアリングにおいては、新たに導入した面談シートを活用しながら、今後のキャリア形成について議論し、キャリアアップへ向けての積極的な意識づけを行った。

③専門性の高い人材の育成について

・各事業において求められる専門性の獲得のため、職員が計画的に関連する外部の専門研修を受講するとともに、事業所内での専門性の広がりにつながるよう職員間における日常業務での連携に取り組んだ。

重点的な取組

①地域の福祉ニーズに対応した通所事業の展開

・生活介護事業においては、利用者の利用ニーズに対応するため、利用送迎の調整や希望する活動の提供を行い、利用率の向上を図った。
・児童サービスにおいては、制度改正に対応したサービス提供の確立に努めた。また、利用率減少への対策として、新たに事業所ＰＲのためのチラシを作成し、関係各所に配布するとともに、地域における他事業所の運営状況やサービス提供状況を踏まえ、２事業所体制の維持を前提に、２事業所間での利用調整や利用者ニーズの把握と掘り起こしによる新たな支援プログラムの提供について検討を進めた。

②相談支援・基幹相談支援センター・就業・生活支援センターの機能充実

・相談支援部門では、職員間の意思疎通や情報共有による業務連携を進めながら、行政及び地域の相談支援事業所等との地域ネットワークの積極的な活用を行った。
・就業・生活支援センターでは、事業所として求められた職員体制の見直しによる体制整備を行うとともに、地域ニーズへの積極的関与として、関係機関からの意見要望等の聞き取りと調整に努めた。

③危機管理体制の整備強化

・事業継続計画の運用を開始し、計画内容の周知と訓練の実施、計画の改訂を行うことによって体制の整備強化を進めた。

由利本荘地域生活支援センターの利用状況

１．利用者数（契約者数）

単位：人

種別	R6.3.31		R7.3.31		R6.4～R7.3	
	定員	利用者数	定員	利用者数	延利用者	利用者／日
生活介護	20	40	20	41	5,014	18.9
児童発達支援	10	9	10	4	313	1.8
放課後等デイサービス		26		31	2,279	7.9
放課後等デイサービス	20	17	20	19	1,651	6.8

種　　別	R6.4～R7.3延件数
相談支援（児童含）	1,829
障害児等療育支援	115
基幹相談支援センター	745
障害者就業・生活支援センター	3,203

阿桜園

ハイクオリティサービス推進システム（理事長マネジメントレビュー）

①事業継続計画の周知及び訓練・研修等の実施について

・事業継続計画について説明の機会を設け、ＢＣＰの発動時の初動動作の確認を含めた研修、火災や自然災害発生時の訓練を実施し、職員への周知を図った。感染症の対応については一年を通して実務にてＢＣＰ発動時の対応について学ぶ機会となった。

②職員定着の取組について

・園長による全職員を対象にした個別面談にてメンタルケアを実施。また各部署にて職員間で話し合いしやすい風通しの良い環境づくりに取り組んだ。

③専門性の高い人材の育成について

・強度行動障害支援者養成研修基礎研修及び実践研修の受講を推奨し、修了者による支援の充実を図った。また強度行動障害支援者養成研修指導者研修修了者によるスキルアップ研修の実施や各部署ごとで支援計画シートに基づく支援について検証を重ねて専門性を高めた。

重点的な取組

①虐待防止の取組

・人権擁護、虐待防止研修、身体拘束廃止に向けた研修、意思決定支援に関する研修等実施。朝の引継ぎ時に虐待防止目標について確認し職員の意識付けを図った。それぞれの支援を評価する他己チェックを実施し、気軽に支援について声を掛け合える体制づくりに努めた。

②安定した組織体制作り

・作業場の活用について検討実施。窯業を廃止し、重度の障がいを持った方であっても落ち着いて作業が行える環境整備を進めた。
・新たな事業所の参入により当園の放課後等デイサービスについて将来的に利用減少が見込まれること、統合により幅広い年代の交流による様々な場面での相乗効果が期待されることから２事業所の統合を図った。３月３１日付で１事業所廃止。

③働きやすい職場環境整備

・日誌及びケース記録の電子決裁を導入し定着した。
・全棟ＷｉＦｉ環境を整え、無線での電子機器の活用が可能となった。
・モデル事業としてＶＵＥＶＯ（会議の文字起こし）の活用を進めるも、文字変換への対応が困難であることから途中で終了した。
・利用者の安心した生活、業務効率化、職員の腰痛予防のためロボット介護機器やＩＣＴ機器について情報収集し検討を行った。

④感染症・災害対策

・標準的な感染防止対策を継続実施し、感染拡大防止の措置を可及的速やかに行えるようシミュレーションや研修を行った。
・ＢＣＰ発動時の初動動作の確認、火災や自然災害の発生時に速やかに避難し、生命を守る行動ができるように研修や訓練を実施した。

⑤人材確保

・ホームページ、ＳＮＳ等を活用し広報活動に努め、令和６年度は６名採用した。支援業務については継続雇用者が多いが、グループホーム世話人、調理員の職員定着について課題が残る。

阿桜園の利用状況

１．利用者数（契約者数）

単位：人

種別	R6.3.31		R7.3.31		R6.4～R7.3	
	定員	利用者数	定員	利用者数	延利用者	利用者／日
施設入所支援(阿桜園)	60	49	60	53	17,655	48.4
施設入所支援（あざくら園）	40	39	40	40	13,937	38.2
生活介護(阿桜園)	60	61	60	68	14,310	39.3
生活介護（あざくら園）	40	40	40	41	10,240	28.1
福祉型障害児入所	5	3	5	3	1,325	3.7
共同生活援助（GH希望Ⅰ）	5	4	5	5	1,383	3.8
共同生活援助（GH希望Ⅱ）	5	5	5	5	1,813	5.0
短期入所	4	－	4	－	470	1.3
児童発達支援	10	0	10	0	0	0.0
放課後等デイサービス		15		26	1,680	7.0
放課後等デイサービス	10	16	10	18	1,768	7.3

種　　別	R6.4～R7.3延件数
相談支援（児童含）	621
日中一時支援	514
障害児等療育支援	297

２．利用者の状況（令和７年３月３１日現在）

（１）施設入所

支援区分	無	1	2	3	4	5	6	計
男	0	0	0	0	10	16	40	66
女	0	0	0	0	3	6	18	27
計	0	0	0	0	13	22	58	93

年齢構成（障害児入所・施設入所）

区分	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80以上	計
男	1	1	4	10	23	17	4	6	1	67
女	0	3	4	5	5	6	2	3	1	29
計	1	4	8	15	28	23	6	9	2	96

（２）グループホーム

支援区分	無	1	2	3	4	5	6	計
男	1	0	0	3	1	0	0	5
女	1	0	1	1	1	1	0	5
計	2	0	1	4	2	1	0	10

年齢	10-19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳～	計
男	0	1	1	1	2	0	0	0	5
女	1	0	1	2	1	0	0	0	5
計	1	1	2	3	3	0	0	0	10

湯沢雄勝広域市町村圏組合やまばと園

ハイクオリティサービス推進システム（理事長マネジメントレビュー）

①事業継続計画の周知及び訓練・研修等の実施について

・策定した事業継続計画の職員会議等での情報提供及び各部署への計画書の配布により全職員への周知を図った。発電機操作や感染症対応等研修を実施した。

②職員定着の取組について

・風通しの良い職場とするため、職員に対する積極的な声掛けや各部署への訪問により職員の声に耳を傾け現状や課題などを把握し、モチベーションの向上により働きやすい職場環境を目指した。また、中途採用職員へＯＪＴを丁寧に行い、職員の定着に努めた。

③専門性の高い人材の育成について

・強度行動障害支援者養成研修基礎研修及び実践研修の受講を推奨し、障がいの重い方への対応方法など、支援の充実を図った。また、各種研修会や事業所内へ講師を招き自己研鑽に努め専門性を高めた。

重点的な取組

①質の高いサービス提供

・重度支援対象者については支援計画シート、手順書を作成し、利用者の特性に配慮した支援を提供した。感染症への対策として、昨年度より引き続き入所と通所の施設内活動スペースを分離し感染リスクの低減を図るとともに、感染症対策研修を定期的に実施し対策強化に努めた。

・通所事業の就労継続支援Ｂ型において、施設内で生活介護を併用することで、活動内容に幅を持たせ、就労意欲と生活スキルの向上を図った。

・会議等でもＩＣＴの活用をすることにより、業務効率化を図り、利用者支援をより充実するよう努めた。

②利用者満足度の向上と人材育成

・季節に応じた外出行事や本人活動としてやまばと農園へ出かけるなど積極的に身体を動かす機会を設けた。農園で収穫した野菜や果物は、普段の食事や自治会の喫茶でデザートとして提供した。また、園内の余暇活動でも利用者の好む趣味活動を通して心と身体の両面から刺激を受けるような活動を実践し、利用者の満足度の向上を図った。

・権利擁護や意思決定支援の各種研修受講により障がい福祉に関する基本的なスキルを身に付け、職員は利用者の代弁者として意識を高めることができた。

③利用者ニーズに応じた生活環境の整備

・第５期指定管理（令和６年度から令和１０年度）を受託し指定管理者の湯沢雄勝広域市町村圏組合と、施設の長寿命化のための設備等改修の協議を行い、令和６年度は空調設備を更新し、快適な住環境を整えた。

やまばと園の利用状況

1.利用者数（契約者数）

単位：人

種別	R6.3.31		R7.3.31		R6.4～R7.3	
	定員	利用者数	定員	利用者数	延利用者	利用者／日
施設入所支援	60	61	60	59	19,895	54.5
生活介護	50	73	50	75	15,764	43.2
就労継続B型	10	8	10	8	1,473	5.8
共同生活援助（GHばってりー）	5	5	5	5	1,765	4.8
短期入所	8	－	8	－	155	0.4
放課後等デイサービス	10	15	10	17	2,049	8.5

種　　別	R6.4～R7.3延件数
相談支援（児童含）	483
日中一時支援	177
障害児等療育支援	233

２．利用者の状況（令和７年３月３１日現在）

（１）施設入所

支援区分	無	1	2	3	4	5	6	計
男	0	0	1	1	8	11	18	39
女	0	0	0	0	2	9	9	20
計	0	0	1	1	10	20	27	59

年齢	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳～	計
男	4	9	11	13	1	1	0	39
女	2	2	7	4	2	3	0	20
計	6	11	18	17	3	4	0	59

（２）グループホーム

支援区分	無	1	2	3	4	5	6	計
男	0	0	1	0	1	3	0	5
女	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	1	0	1	3	0	5

年齢	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳～	計
男	1	2	2	0	0	0	0	5
女	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1	2	2	0	0	0	0	5

障害者支援センター御所野

ハイクオリティサービス推進システム（理事長マネジメントレビュー）

①事業継続計画の周知及び訓練・研修等の実施について

・地震・火災等を想定し、避難誘導、初期対応、要支援者の対応について実地訓練を行ったほか、感染症予防研修を実施し、感染症発生時の役割分担や行動手順の理解を深めた。

②職員定着の取組について

・課長と各職員との面談を通じて職場環境や業務上の課題、働きやすさに関する意見を収集し、課題の可視化を実施した。また、面談で得られた課題や意見をもとに業務改善チームを結成し、職員主体で問題解決に取り組む体制を構築した。他に自由でフラットな意見交換の場として、ワールドカフェ方式を活用し階層にとらわれないコミュニケーションの促進、アイデア創出のきっかけづくりに取り組んだ。

③専門性の高い人材の育成について

・高次脳機能障害の基礎知識をテーマとした研修を実施し、障がい特性に応じた適切な支援方法について理解を深めるとともに、利用者一人ひとりの特性に応じた個別支援の質を高めることを目指し、実践的な支援方法について意見交換を行った。

重点的な取組

①職員の資質向上と業務効率化

・障害者虐待防止法や権利擁護に関する研修により虐待防止・権利擁護への理解が深まり、日々の支援において人権尊重の視点が強化された。
・介護技術研修及び高清水園との職員交換研修を実施し、障がい特性に応じた適切な支援方法について理解を深めた。
・ＩＣＴ機器等（ＶＵＥＶＯ、タブレット端末、スマートウォッチ）の活用による記録業務の負担軽減や機器の操作性、正確性とスピード、利便性について検証し、課題の洗い出しを行った。また、介護ロボットや電動介護リフトについて調査・検討を実施したが導入には至らなかった。

②安定した自立経営の継続

・高齢入所利用者の介護保険施設移行の可能性について家族・関係機関と連携を図りながら情報共有し、本人の状態や希望を踏まえた適切なサービス内容を検討した。
・短期入所・日中一時支援利用については地域ニーズを踏まえて利用者の生活状況や家族のニーズを把握し、継続的な利用につなげた。
・月次で光熱水費の推移を確認し、コスト削減の取り組みが数値に表れるよう管理を徹底した。

③地域貢献活動

・施設周辺の公道脇の草刈り及びごみ拾いを行い、地域の環境美化に貢献した。また、地域において入浴に困難を抱える方々を対象に施設内の特殊浴槽を開放し入浴支援を実施した。
・施設への理解を促進するため、広報誌の地域配布、ホームページへの情報掲載、隣接する老人ホームのイベントへ参加し地域交流を図った。

④事業継続計画の整備

・防災訓練や研修を踏まえてＢＣＰと連動する形で内容の見直しを行った。また、想定される災害・緊急事態ごとに必要な備品をリスト化し、在庫の把握と管理体制の強化を図った。

障害者支援センター御所野の利用状況

１．利用者数（契約者数）

単位：人

種別	R6.3.31		R7.3.31		R6.4～R7.3	
	定員	利用者数	定員	利用者数	延利用者	利用者／日
施設入所支援	40	40	40	40	13,826	37.9
生活介護	40	46	40	42	10,874	29.8
短期入所	2	－	2	53	668	1.8

種　　別	R6.4～R7.3延件数
日中一時支援	43

２．利用者の状況（令和７年３月３１日現在）

（１）施設入所

支援区分	無	1	2	3	4	5	6	計
男	0	0	0	1	11	9	4	25
女	0	0	0	1	1	6	7	15
計	0	0	0	2	12	15	11	40

年齢	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳～	計
男	2	3	2	4	11	3	0	25
女	0	1	4	3	7	0	0	15
計	2	4	6	7	18	3	0	40

秋田県点字図書館

重点的な取組

①視覚障がい者が利用しやすい図書貸出

・令和６年度末の個人登録者数は７１５名で前年度比６名の増であった。
・貸出数は、点訳図書は３４１タイトルで前年度比で１４％減、デイジー図書は5，８４６タイトルで２％の減、音訳図書は４０タイトルで１５％減であった。
・定期刊行物は４０タイトルを延べ8，７８９名に提供した。
・貸出数が前年度より減少傾向にある。点訳図書と音訳図書が大きく減少したがデイジー図書はほぼ増減が無い状態である。要因として点訳図書の利用者が減少していることや、カセットテープ利用者がデイジー利用に移行しているためと思われる。
・ＳＤカードによる貸出は現在２名が利用している。９月からデイジーオンラインサービスを実施しており、１名が利用している。（１回で１０タイトル利用可能で、サピエにログインできる環境にある方が対象）

②図書等の製作を担う人材の確保

・当館登録奉仕員は、点訳９０名、音訳６９名、音訳校正９名、音声デイジー編集９名、テキストデイジー９名、作業１１名の計１９７名。（前年度は１９９名）
・今年度は点訳及び音訳奉仕員養成講座を実施し１３名が修了した。（点訳６名、音訳７名）また前年度修了者１６名に対し、修了後の指導助言を行い育成に努めた。
・製作は、前年度比で点訳図書は１２９タイトルで４８％減、デイジー図書は１２１タイトルで２％増、テキストデイジーは４５タイトルで２４％減であった。
・点訳及び音訳奉仕員にパソコンと編集ソフト等を貸出し、蔵書等の製作活動を積極的、継続的にできる活動環境を整えるよう努めた。

③状況に応じた適切な情報提供と利用の拡大

・「秋田県版スマートサイト推進委員会」、「秋田県図書館等連絡会」等へ参画する機会を利用して当館の情報提供を行った。
・シネマデイジー体験会を５回開催し、シネマデイジーの周知に努めた。

④情報機器等に関する相談対応

・県視覚障害者福祉協会の令和６年度わくわく文化祭と共催で視覚障がい者のための情報機器・日常生活用具展示体験会を実施した。

⑤障がいへの理解促進と点字普及活動等

・小学生の点字学習（３校・対象１１５名）へ延べ５名の奉仕員を派遣した。また小学生の体験学習は２校６０名を受け入れた。
・中学生の職場体験（３校、１３名）、視覚支援学校のインターンシップ１名を受け入れた。
・県内ボランティアグループの勉強会への講師派遣や技術指導等の依頼に対しては積極的に協力した。
・館主催のイベント「プチッと点字体験」は２件実施した。「まなびピア２０２４ｉｎ大館」と第２４回心いきいき芸術文化祭で共催事業として実施したものである。
・県条例の推進で「小中学生向け障害理解教室」（点字学習）を小学校（９校）で行った。

点字図書館の利用状況

1. 図書受入状況　　令和6年4月～令和7年3月

区分	点字図書		テープ録音図書		デイジー図書		テキストデイジー		合　計		タイトル構成比
受　入　先	タイトル	冊数	タイトル	冊数	タイトル	冊数	タイトル	冊数	タイトル	冊数	
厚生省委託	46	106	0	0	60	60	0	0	106	166	25.79%
自館制作	129	440	0	0	121	121	45	45	295	606	71.78%
複製	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
購入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
寄贈	0	0	0	0	10	10	0	0	10	10	2.43%
計	175	546	0	0	191	191	45	45	411	782	100.00%

2. 分類別貸出状況

区分／受入		点字図書（含、FD）		録音図書（テープ）		音声デイジー（CD）		合計		タイトル構成比
		タイトル	冊数	タイトル	冊数	タイトル	冊数	タイトル	冊数	
0	総記	0	0	1	7	16	16	17	23	0.28%
1	哲学	6	16	1	5	92	92	99	113	1.61%
2	歴史	4	22	2	15	110	110	116	147	1.89%
3	社会科学	10	29	2	18	157	158	169	205	2.75%
4	自然科学	4	14	2	14	133	133	139	161	2.26%
5	技術	5	16	0	0	30	30	35	46	0.57%
6	産業	2	6	1	4	39	39	42	49	0.68%
7	芸術	4	8	1	10	69	69	74	87	1.21%
8	言語	0	0	0	0	31	31	31	31	0.50%
9	文学	309	1,171	32	238	5,078	5,092	5,419	6,501	88.24%
合計		344	1,282	42	311	5,755	5,770	6,141	7,363	100.00%

秋田県聴覚障害者支援センター

重点的な取組

①センター及び意思疎通支援派遣事業の周知

・当センターのＰＲ活動を兼ねたふれあい祭りについて、会場を予定していた社会福祉会館が複数の工事を行ったことに伴い、予定していた時期に使用することができず、他の会場も検討したが条件に合う会場が見つからなかったため、令和６年度は開催を見送ることになったが、秋田市を除く県内の各市町村の障害福祉課を訪ね、当センターの事業説明を行い周知を図った。
・情報発信動画を１つ、手話動画「秋田の手話で語る」を１つの計２つの動画を収録し、ホームページ及びＹｏｕＴｕｂｅにて公開した。
・手話未経験の中途失聴・難聴者を対象にした手話教室は、受講者が非常に少ない見込みとなるため、開催を見送ることにした。

②意思疎通支援者の養成

・手話通訳者養成研修会Ⅰは秋田市で８名、手話通訳者養成研修会Ⅱは大館市で９名、手話通訳者養成研修会Ⅲは横手市を会場に７名がそれぞれ修了した。また、令和６年度手話通訳者全国統一試験を受験する方を対象に、手話通訳者全国統一試験対策講座を１１月４日と１１月２３日の全２回実施し、１回目、２回目ともに１２名が参加した。１２月７日には手話通訳者全国統一試験を実施し、１９名が受験。２名が合格となった。
・要約筆記者養成講座（手書き）は秋田市で１２名が修了した。また、全国統一要約筆記者認定試験を受験する方を対象に、全国統一要約筆記者認定試験対策講座を１月１１日に実技、２月１日に筆記を実施した。実技（手書き）は８名、実技（パソコン）は２名、筆記は９名が参加した。２月１６日には全国統一要約筆記者認定試験を実施し、手書き９名、パソコン３名が受験。手書き６名、パソコン１名が合格となった。
・手話通訳者養成研修の講師が少ないという状況が続いているが、講師を引き受けることができる人も少なく、全国手話研修センターの連続講座を受講できる人がいないため、今後も関係団体と検討を続ける。

③災害時情報拠点施設としての役割整理

・災害時における情報拠点としての機能を期待されているが、実際の災害時は市町村ごとの個別避難計画に沿って避難することになるため、秋田市を除く県内の各市町村の障害福祉関係部署を訪ねた際に、聴覚障がい者への配慮を求めた。

④他県の聴覚情報提供施設の視察

・先進地視察研修として、１１月８日に岩手県立視聴覚障がい者情報センター、１１月２０日に宮城県聴覚障害者情報センター「みみサポみやぎ」で実施した。どちらも当センターより規模が大きく、様々な事業を行っており、研修成果を今後の事業運営に繋げるために検討していく。

聴覚障害者支援センターの利用状況

	令和６年度実績												前年度実績
	相談件数	相談種別			相談内訳								
		電話・ＦＡＸ	来所	訪問等	施設	生活	福祉サービス	年金・手当	医療・保健	職業	補装具	その他	
４月	15	0	12	3	0	10	0	0	1	0	0	4	49
５月	36	14	15	7	0	16	0	0	0	0	0	20	43
６月	26	8	15	3	0	19	0	0	0	0	0	7	23
７月	23	9	12	2	0	10	0	0	0	0	0	13	20
８月	10	1	8	1	0	6	0	1	1	0	0	2	15
９月	14	4	10	0	0	9	0	0	0	0	0	5	20
10月	23	15	8	0	0	14	0	0	0	0	0	9	20
11月	11	3	6	2	0	5	0	0	0	0	0	6	10
12月	11	1	10	0	0	8	0	0	0	0	0	3	26
１月	21	1	18	2	0	9	0	0	2	0	1	9	23
２月	7	3	4	0	0	3	0	1	0	0	0	3	17
３月	11	0	9	2	0	10	0	0	0	0	0	1	16
合計	208	59	127	22	0	119	0	2	4	0	1	82	282

（相談件数：延人数）

年代別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代～	関係機関	不明	合計
年間件数	0	0	1	3	6	15	88	34	60	1	208

（男女年代：実人数）

年代別		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代～	関係機関	不明	合計
男女別	男性	0	0	0	3	0	2	20	10	2	0	37
	女性	0	0	1	0	6	6	24	11	21	1	70

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月	3	6	2	5	1	2	2	3	1	5	0	4	34
火	4	8	8	5	3	3	9	3	1	6	0	3	53
水	4	8	5	3	1	4	7	3	2	3	3	3	46
木	2	7	4	6	2	2	2	0	6	5	2	1	39
金	2	7	7	4	3	3	3	2	1	2	2	0	36
土	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	15	36	26	23	10	14	23	11	11	21	7	11	208

Ⅲ　公益的な取組

地域における公益的な取組

施設名（法人　事務局）

事業名	秋田たすけあいネットあゆむとの共同活動
事業概要	＜目的＞ ・ＮＰＯ法人との共同活動を通じ、地域が真に求める福祉ニーズを法人の活動にフィードバックする。 ＜対象者＞ ・共同活動であるためＮＰＯ法人のコンセプトに合わせた「助けを求める人」全てを対象とする。 ＜内容＞ ・秋田たすけあいネットあゆむと秋田市のコンビニエンスストア約４０店舗がフードボックス設置の契約をしたことに伴う、定期的な回収作業を中心に行う。 　また引き続き老人福祉総合エリアに設置したフードボックスによる食料支援も行う。
年間事業内容	＜広域的なフードボックス回収作業＞ ・月１回、秋田市内ファミリーマートのフードボックスの確認・回収作業を行い、回収した物品をたすけあいネットあゆむへ届ける。
関係機関や団体等との連携状況	＜関係機関＞ ・ＮＰＯ法人　秋田たすけあいネットあゆむ ＜連絡調整＞ ・ＮＰＯ法人とは、フードボックス設置店舗からの回収依頼状況、店舗閉店や新たなフードボックス設置契約店の状況確認、関係機関が発行するパンフレットの補充について適宜連絡調整を行った。
決算額	０円
事業担当職員	所属（　経営管理課　）　氏名（　東海林　航　）
事業の総評	・秋田県中央地区老人福祉総合エリアに設置したフードボックスに寄付されたレトルト食品、米、飲料品、調味料等延べ２５品を納品し貢献した。 ・秋田市内ファミリーマートに設置されているフードボックスに寄付された食料品を毎月１回計１２回、紙袋計６８袋程度回収、納品し貢献した。 ・前年度は段ボール６１箱の回収であり同程度の物品を納品した。 ・共同活動先のＮＰＯ法人より、本活動のボランティア人材が減っていると話があり、この取組を継続して行う意義を再確認した。

地域における公益的な取組

施設名（高清水園）

事業名	地域生活サービス利用者交流事業
事業概要	＜目的＞ ・地域における公益的な活動の一環として、屋外でクリーンアップ活動を行う。活動を通して施設の近隣住民との交流と地域への貢献を図り、相互に理解を深めることを目的とする。 ＜対象者＞ ・高清水園利用者と職員、地域住民（近隣の町内会）、ボランティア参加者 ＜内容＞ ・春と秋の２回開催し、高清水園周辺やグループホーム周辺の道路脇や歩道のゴミ拾い、草取り、落ち葉拾いなどを地域住民やボランティア参加者と協力して行う。
年間事業内容	【高清水園周辺のクリーンアップ】 実施日：令和6年6月23日（日）10:00～11:00 内　容：高清水園周辺のクリーンアップ活動。 参加者：利用者8名　ボランティア6名　職員5名 【グループホーム周辺のクリーンアップ】 実施日：令和6年11月23日（土）10:00～11:00 内　容：グループホーム周辺のクリーンアップ活動。 参加者：利用者15名　職員9名
関係機関や団体等との連携状況	・園周辺のクリーンアップでは日赤看護学校の生徒ボランティアサークルと連絡を取り合い、共同で行うことができた。 ・グループホーム周辺のクリーンアップでは町内会長と連絡を取り合ったが、町内会からの参加はなかった。
決算額	１０，７４１円
事業担当職員	所属（　支援課　）　氏名（　池内　健一　）
事業の総評	・園周辺のクリーンアップ活動では日赤看護学校教務課に仲介して頂き生徒ボランティアサークルと協力関係を築くことができた。また、クリーンアップ活動を通して生徒と利用者との良い交流の場にもなった。 ・グループホーム周辺のクリーンアップ活動では地域住民からの協力は得られなかったが、グループホームからほぼ全ての利用者が参加し、地域貢献することができた。

地域における公益的な取組

施設名（秋田県心身障害者コロニー）

事業名	ふれあい交流事業
事業概要	＜目的＞ ・地域で生活する障がいを持つ方やひきこもりの方々が余暇時間を有効に活用し、関わりを深めながら、地域社会の中で安心して生活できる環境を作れるよう交流事業を推進していく。 ＜対象者＞ ・由利本荘市、にかほ市在住で障がい等をお持ちの方、その家族の方々。 ＜内容＞ ・地域サロン～地域交流の場所として「歩人」を提供し、誰もが気軽に利用できる憩いの場として活用してもらう。 ・イベント交流～利用されている方々のアンケートを検証し、即売会での交流や専門的知識のある方々の協力を得ながら、楽しんで頂けるイベントを提供し、地域の方々との交流を深める。 ・ギャラリー展示等～施設や他事業所、地域サロン利用者、地域住民が制作した作品等を展示する場を設け、地域住民との交流を図る。 ・関係機関（由利本荘市・市社協等）と連携し、参加者の掘り起こしを重点的に行い参加者の拡大を図る。
年間事業内容	実績を入力 ・歩人即売イベント（４月.１０月）　参加者２２２名 ・ガーデニング教室（５月）　　参加者　　６名 ・ミュージックセラピー（講師の予定合わず未実施） ・３Ｂ体操（１０月）　　参加者　　７名 ・ふれあい交流作品展示（１１月、行事委員会と共同） 　　参加者　１０名 ・１２月から３月の期間は季節性の感染症流行期の為、開催を控える。 ・次年度イベント案内発送（３月）
関係機関や団体等との連携状況	・由利本荘市・にかほ市への情報提供及び情報共有 ・由利本荘市・にかほ市社会福祉協議会との事業連携 ・由利本荘市地域生活支援センター　職員との相互協力 ・地域への周知（新聞折込・広報誌でのイベント周知）
決算額	７６，２９６円
事業担当職員	所属（　銀杏支援課　）　氏名（　三浦　智幸　）
事業の総評	・ふれあい交流会はほぼ予定通り実施でき、参加者には好評で次回も楽しみにしているとの声が聞かれた。一方で、参加者がほぼ同じ方に固定される状況にあり、今後の集客に工夫が必要と思われた。 ・コロニー生産直売所「歩人」を会場にイベントを２回実施。パンやリンゴジュース、花苗の就労B製品が好評で、地域住民の方々との交流を深めた。

地域における公益的な取組

施設名（ 由利本荘地域生活支援センター ）

事業名	防災炊き出し訓練の実施
事業概要	＜目的＞ ・由利本荘市社会福祉協議会が実施する防災炊き出し訓練を共催し、地域住民とともに災害時における地域活動について学ぶ機会とする。 ＜対象者＞ ・地域住民及び関係機関の職員 ＜内容＞ ・由利本荘地域生活支援センターを避難所に見立てて、避難所の開設と炊き出しを地域住民及び関係機関の職員が体験した。 ・被災地支援の専門家による講演の実施
年間事業内容	・令和６年１０月２７日（日）開催 ・参加者　２６名 地域住民７名 秋田県立大学学生４名 センター生活介護利用者３名 関係機関職員１１名 講師１名 ・避難所設営、炊き出し（カレー） ・防災非常食（パン）の展示、試食 ・講演「障がい者に配慮した避難所の運営について」
関係機関や団体等との連携状況	・由利本荘市社会福祉協議会及び秋田県心身障害者コロニーと共催した。 ・秋田県立大学及び学生、由利本荘市の協力を得て実施した。
決算額	３，１８５円
事業担当職員	氏名（ 藤原　政広 ）
事業の総評	・関係機関がそれぞれの立場でできることを協力して実施することができ、参加した職員の防災意識の向上にもつながった。 ・今後も継続して実施することとなり、災害時における地域の取組に貢献することが期待される。

地域における公益的な取組

施設名（ 由利本荘地域生活支援センター ）

事業名	作品展示ブースの設置
事業概要	＜目的＞ ・施設玄関のスペースを、地域住民や特別支援学校生徒の展示ブースとして開放する。 ＜対象者＞ ・由利本荘市・にかほ圏域在住の障がい者、特別支援学校生徒 ＜内容＞ ・玄関前・外のスペースに展示ブースを設け、地域の障がい者の作品や特別支援学校生徒の生産品の展示の場とした。
年間事業内容	・４月より、地域在住者の生産品の展示を行った。 ・７月より、ゆり支援学校の展示を行った。
関係機関や団体等との連携状況	・ゆり支援学校からの依頼により展示を行った。学校関係者が施設を来所し、展示品の入れ替えを行いながら、情報の共有を図った。
決算額	１１，４３５円
事業担当職員	所属（　管理支援課　）　氏名（　松井　美代子　）
事業の総評	・地域在住者の生産品の展示については、その方々と地域の接点となり、地域生活の充実に向けた足がかりの役割を担うことができた。 ・ゆり支援学校の展示は、学校との連携により、生徒の活動状況を紹介することができた。

地域における公益的な取組

施設名（阿桜園）

事業名	地域生活交流活動事業
事業概要	＜目的＞ ・地域で余暇活動の支援が必要な障がい児者等を対象に日中活動の機会を提供し、生活の質及び社会生活力の向上を図る。 ＜対象者＞ ○余暇活動支援 　地域の余暇活動への支援が必要な障がい児者、ひきこもり状態にある方等 ＜内容＞ ・阿桜園の体育館及び付属設備を提供するとともに講師を依頼して活動を行う。 ・余暇の充実と社会生活力の向上を図る。
年間事業内容	・第１回　５月２６日（日）「スポレク教室」 園内感染症あり中止 ・第２回　６月２３日（日）「ダンス教室」 園内感染症あり中止 ・第３回　１０月６日（日）「ドライブ活動」 ６名参加、担当職員４名(運転含) ・第４回　１０月６日（日）「わくわく科学実験教室」 ４名参加、担当職員４名（運転含）、講師２名 ・第５回　２月２３日（日）「カフェ」活動お疲れ様会 ６名参加、担当職員３名(運転含)
関係機関や団体等との連携状況	・余暇活動の内容について、関係機関、講師等と事前に情報共有を行うとともに、安全に実施するために必要に応じて参加者が利用している事業所等との連携を図った。
決算額	４２,８５０円
事業担当職員	所属（　支援課　）　氏名（　遠田　泰秀　）
事業の総評	・感染症予防に留意し、体調確認や検温、消毒等感染症対策を図りながら実施した。アンケートの要望をもとに活動内容を計画し概ね参加者に好評であった。活動お疲れ様会を行い１年の活動を参加者の方々と共に振り返ることができた。特定の参加者に留まり新規利用がなく情報提供の在り方等課題がある。

地域における公益的な取組

施設名（湯沢雄勝広域市町村圏組合やまばと園）

事業名	交流サロン　ホップ！
事業概要	＜目的＞ ・休日の余暇時間に、様々な体験の場を提供することで余暇時間の充実を図り、自らの余暇を楽しむことができるよう支援する。また、人と人を繋ぎ、友達づくり・仲間づくりの機会を提供、制度や地域の取組み等について、情報共有の機会を提供することを目的とする。 ＜対象者＞ ・湯沢雄勝圏域に居住している障がいのある方 ＜内容＞ ・第1回　ドライブ（あやめ祭り見学） ・第2回　折り紙制作と抹茶を楽しむ会 ・第3回　クリスマス飾り作り ・第4回　スポーツレクリエーション
年間事業内容	・第1回　6/22(土)ドライブ（あやめ祭り見学） 参加者4名 ・第2回　9/7(土)折り紙制作と抹茶を楽しむ会 参加者4名　民生委員4名 ・第3回　12/7(土)クリスマス飾り作り 参加者2名 民生委員3名　見学者2名 ・第4回　2/22(日)スポーツレクリエーション 参加者3名 民生委員10名
関係機関や団体等との連携状況	開催案内通知について、圏域内の相談支援事業所、就労継続支援事業所、グループホーム、基幹相談支援センター及び社会福祉協議会に情報提供及びポスター掲示等の依頼をしている。
決算額	３０，５６６円
事業担当職員	所属（　支援課　）　氏名（　藤原　文子　）
事業の総評	・８月開催予定が感染症対策で中止となり、開催時期がずれ込み４回の実施となった。民生委員の方に声を掛けたところ多数の参加希望があり交流を図ることができた。見学希望や新たな参加希望者がおり来年度に繋げていきたい。

地域における公益的な取組

施設名（障害者支援センター御所野）

事業名	特殊浴槽の開放他
事業概要	＜目的＞ ・地域で生活していて、自宅での入浴に困難を抱えている方に安心して入浴できる場を提供する。 ・施設全体で地域貢献できる活動（ゴミ拾い、除草等環境整備）を行う。 ＜対象者＞ ・特殊浴槽の開放～御所野近辺の重症心身障害児者他希望者 ＜内容＞ ・特殊浴槽の開放～ミスト浴または、個浴槽の開放 ・環境整備～施設周辺の草刈り・ゴミ拾い
年間事業内容	・除草・清掃活動 5/25(土)　施設周辺の公道（秋田市道及び接道する県有地）の除草と併せてゴミ拾い 10/5(土)　施設近隣、中央シルバーエリア周囲の公道、歩道のゴミ拾い ・特殊浴槽体験 6/15(土)女性2名がミスト浴を体験
関係機関や団体等との連携状況	・特殊浴槽体験募集のポスターを作製しＨＰに掲載した。また、医療療育センターや聖和、高清水園相談支援事業所や近隣の放課後等デイサービス事業所にも募集情報を提供し利用を呼び掛けた。
決算額	３３,８１４円
事業担当職員	所属（　支援課　）　氏名（　渡辺　マキ子　）
事業の総評	・清掃活動により景観の妨げとなる屑物を撤去し、地域の環境美化に貢献することができた。 ・特殊浴槽を体験した方からは自宅での入浴が難しくなってきているのでまた利用したいと好評だったものの、応募が少ないことから期間を定めず通年での募集に変更するなど日程調整の改善を図りたい。

地域における公益的な取組

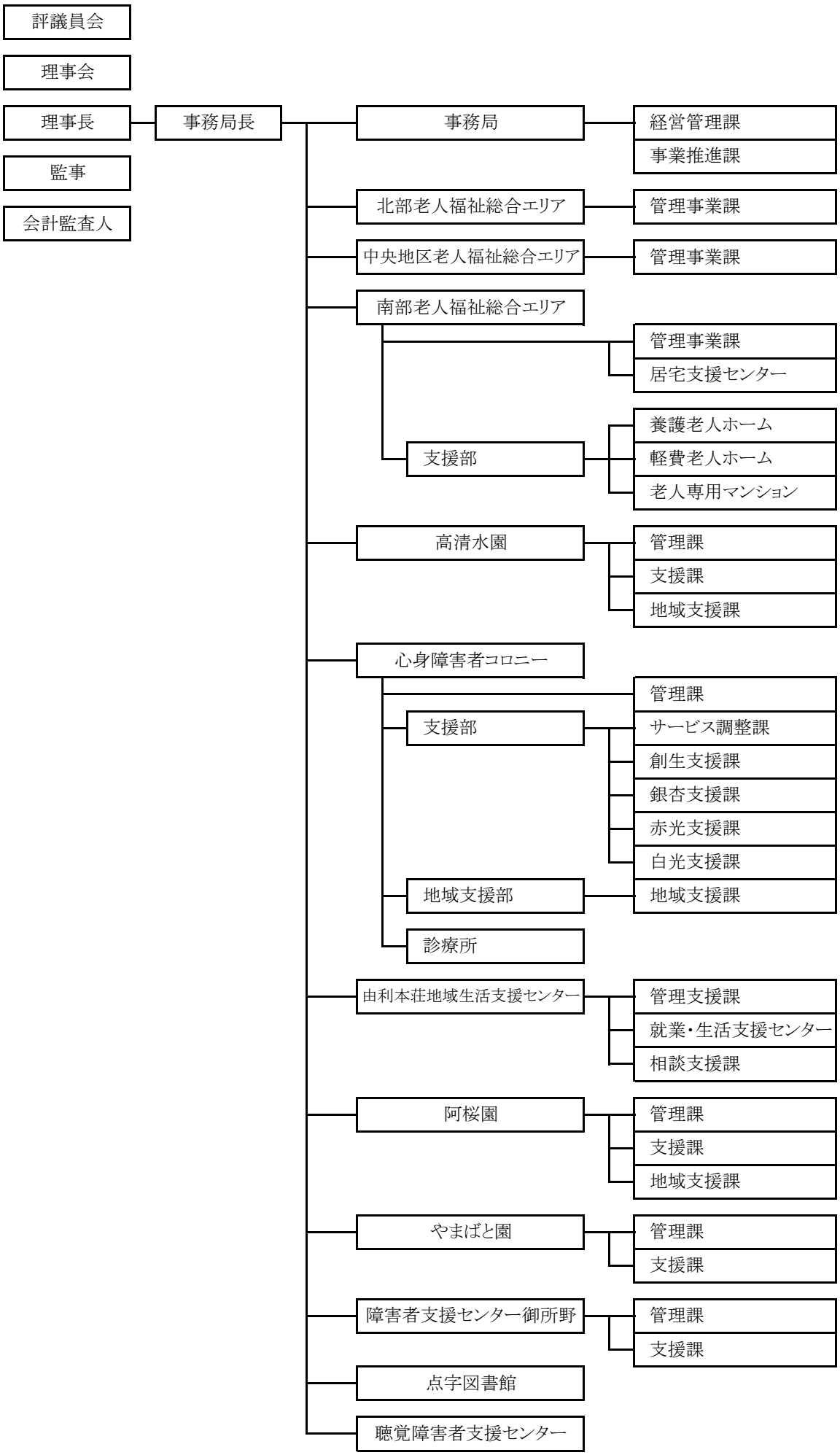
施設名（秋田県点字図書館）

事業名	・小学生向け「点字体験学習」 ・一般県民向け「プチッと点字体験」
事業概要	＜目的＞ ・障がいの理解を図る学習活動（小学生の点字体験学習等）や県民向けの点字普及活動の行事の企画や講師派遣を行い、障がいへの理解促進と点字普及活動等に努め、点字を知る晴眼者を増やし、視覚障がい者とのコミュニケーションや支援することができる県民を増やすことを目的に、当館で可能な活動を実施する。 ＜対象者＞ ・県民全般 ＜内容＞ ・館や学校等を活動場所とし、小学生の点字体験学習や県民向けの点字普及活動の企画や講師派遣。 ①点字五十音表を用いて点字の構成を学習 ②簡易点字器を使用して栞や名刺作り、テプラテープに名前等を打ち名前シールを作成する
年間事業内容	・ 8月2～3日「夏休み点字図書館探検」 学生 7名 大人 3名 ・ 9月20日「心いきいき芸術文化祭」 大人 2名 ・ 9月28日「大館市生涯学習フェスティバル」 大人112名 ・10月6日「情報機器・日常生活用具展示体験会」 大人 2名 ・ 6月～12月「障害理解教室事業」 9小学校 延べ246名
関係機関や団体等との連携状況	・秋田県障害福祉課 ・秋田県視覚障害者福祉協会 ・秋田県障害者社会参加推進センター ・県内小学校 ・県内各市町村
決算額	０円
事業担当職員	氏名（ 岩田 陽子 ）
事業の総評	・点字図書館探検は参加者が少なかったが、一定のニーズはあると思われるので、県内の同時期のイベントを注視して開催日の再検討が必要。 ・大館市生涯学習フェスティバルでは参加者が倍増している。５回目ということで、認知されてきているのではないかと思われる。

資　　料

１．組織

令和7年3月31日現在



２．施設の概要

令和7年3月31日現在

種別	施設名	所在地	主なサービス	定員	備考
老人福祉総合エリア	秋田県北部老人福祉総合エリア	大館市	コミュニティセンター		指定管理
	秋田県中央地区老人福祉総合エリア	秋田市	コミュニティセンター		指定管理
	秋田県南部老人福祉総合エリア	横手市	コミュニティセンター		指定管理
			養護老人ホーム	50	
			軽費老人ホーム（特定含）	50	
			老人専用マンション	24	指定管理
			居宅支援センター		
			生きがい創作館		指定管理
障害児者支援施設	高清水園	秋田市	施設入所支援事業	88	
			生活介護事業	92	
			グループホーム（６ヵ所）	28	
	秋田県心身障害者コロニー	由利本荘市	施設入所支援事業	340	
			生活介護事業	350	
			就労継続支援事業Ｂ型	60	
			グループホーム（１８ヵ所）	91	
			診療所		
	由利本荘地域生活支援センター	由利本荘市	生活介護事業	20	
			児童発達支援事業	10	のびのび
			放課後等デイサービス		
			放課後等デイサービス	10	ぐんぐん
	阿桜園	横手市	施設入所支援事業	100	
			生活介護事業	100	
			福祉型障害児入所施設	5	
			児童発達支援事業	10	
			放課後等デイサービス		
			放課後等デイサービス	10	さくらっこ
			グループホーム（２ヵ所）	10	
	湯沢雄勝広域市町村圏組合やまばと園	湯沢市	施設入所支援事業	60	指定管理
			生活介護事業	50	
			就労継続支援事業Ｂ型	10	
			放課後等デイサービス	10	
			グループホーム（１ヵ所）	5	
	障害者支援センター御所野	秋田市	施設入所支援事業	40	
			生活介護事業	40	
視聴覚障害者情報提供施設	秋田県点字図書館	秋田市	視覚障がい者への情報提供		指定管理
	秋田県聴覚障害者支援センター	秋田市	聴覚障がい者への情報提供		県受託

３．施設のサービス利用状況

利用者は各年度３月３１日現在の契約者数　件数は年間の延べ件数

障害者

１　介護給付

施設名	施設入所				生活介護				短期入所			
	定員		利用者		定員		利用者		定員		利用者	
	Ｒ５	Ｒ６	Ｒ５	Ｒ６	Ｒ５	Ｒ６	Ｒ５	Ｒ６	Ｒ５	Ｒ６	Ｒ５	Ｒ６
高清水園	88	88	81	80	92	92	88	88	8	8	14	11
心身障害者コロニー	340	340	298	290	350	350	280	285	5	5	12	12
由利本荘支援センター	－	－	－	－	20	20	40	41	－	－	－	－
阿桜園	100	100	88	93	100	100	104	109	4	4	2	7
やまばと園	60	60	61	59	50	50	73	74	8	8	4	8
支援センター御所野	40	40	40	40	40	40	46	47	2	2	39	54
合計	628	628	568	562	652	652	631	644	27	27	71	92

２　就労継続支援

施設名	就労継続支援Ｂ型			
	定員		利用者	
	Ｒ５	Ｒ６	Ｒ５	Ｒ６
心身障害者コロニー	60	60	54	52
やまばと園	10	10	8	8

３　地域生活支援

施設名	日中一時支援				障害児等療育支援			
	定員		利用件数		定員		利用件数	
	Ｒ５	Ｒ６	Ｒ５	Ｒ６	Ｒ５	Ｒ６	Ｒ５	Ｒ６
高清水園	8	8	111	68	－	－	－	－
心身障害者コロニー	5	5	104	121	－	－	－	－
由利本荘支援センター	－	－	－	－	－	－	69	115
阿桜園	4	4	604	514	16	16	310	297
やまばと園	8	8	122	162	12	12	327	233
支援センター御所野	2	2	14	34	－	－	－	－

４　相談支援

施設名	相談件数	
	Ｒ５	Ｒ６
高清水園	634	850
由利本荘支援センター	1,795	1,829
阿桜園	745	621
やまばと園	442	483

５　居住支援（共同生活援助）

施設名	ホーム名	グループホーム			
		定員		利用者	
		Ｒ５	Ｒ６	Ｒ５	Ｒ６
高清水園 ６カ所	結	5	5	5	5
	みのり	5	5	4	5
	さくら	5	5	4	4
	あおぞら	5	5	5	5
	こまち	4	4	4	4
	あすか	4	4	3	3
心身障害者コロニー １８カ所	わかまつ	6	6	6	5
	やすらぎ	6	5	6	5
	そよかぜ	4	5	4	5
	はまなす	4	4	4	4
	まつかぜ	6	5	5	4
	しおさい	5	5	5	4
	なでしこＡ	5	5	4	4
	なでしこＢ	4	4	4	4
	かもめ	5	－	4	－
	御門Ａ	5	5	5	5
	御門Ｂ	5	5	4	5
	清和Ａ	5	5	3	4
	清和Ｂ	5	5	5	3
	朋Ａ	5	5	4	4
	朋Ｂ	5	5	5	5
	めぐみ	6	6	6	5
	菖蒲	6	6	6	6
	若菜	5	5	4	4
	虹	5	5	5	5
阿桜園	希望Ⅰ・Ⅱ	10	10	8	10
やまばと園	ばってりー	5	5	5	5
合計	２８カ所	140	134	127	122

障害児

施設名	障害児入所施設				放課後等デイサービス・児童発達支援			
	定員		利用者		定員		利用者	
	Ｒ５	Ｒ６	Ｒ５	Ｒ６	Ｒ５	Ｒ６	Ｒ５	Ｒ６
由利本荘支援センター	－	－	－	－	20	20	52	54
阿桜園	5	5	3	3	20	20	46	26
やまばと園	－	－	－	－	10	10	16	14

高齢者

施設名	養護老人ホーム				軽費老人ホーム				老人専用マンション			
	定員		利用者		定員		利用者		定員		利用者	
	Ｒ５	Ｒ６	Ｒ５	Ｒ６	Ｒ５	Ｒ６	Ｒ５	Ｒ６	Ｒ５	Ｒ６	Ｒ５	Ｒ６
南部老人福祉エリア	50	50	39	35	50	50	45	47	24	24	0	0

４．役員等

令和7年3月31日現在

（１）　評議員

氏　名	役　　職　　名
坂　本　　仁	地方独立行政法人　秋田県立療育機構理事長
伊　藤　英　紀	社会福祉法人　秋田県身体障害者福祉協会会長
田　中　　勉	公益社団法人　秋田県手をつなぐ育成会会長
白　川　秀　子	公益社団法人　秋田県看護協会会長
柴　田　　博	秋田看護福祉大学福祉学科教授
和　田　士　郎	一般社団法人　秋田県社会福祉士会会長
尾留川　　等	社会福祉法人　つるまい福祉会　理事
秋　山　尚　子	社会福祉法人　秋田けやき会　理事長
神　谷　長　一	阿桜園保護者会会長

任期　令和３年６月２５日　～　令和７年６月定時評議員会

（２）　理事

氏　名	役　　職　　名
関　根　浩　一	前秋田県信用保証協会会長
柴　田　一　宏	柴田一宏法律事務所長
柏　木　清　一	秋田県民生児童委員協議会会長
髙　橋　美岐子	日本赤十字秋田短期大学特任教授
須　田　広　悦	秋田県社会福祉協議会常務理事
佐々木　　薫	秋田県社会福祉事業団事務局長
澤　石　　勉	秋田県心身障害者コロニー管理者
森　井　　勝	秋田県南部老人福祉総合エリア管理者

任期　令和５年６月定時評議員会　～　令和７年６月定時評議員会

（３）　監事

氏　名	役　　職　　名
田　中　政　博	元秋田市財務部長
戸　嶋　　正	元秋田県阿桜園長

任期　令和５年６月定時評議員会　～　令和７年６月定時評議員会

（４）　会計監査人

法人名	所在地
公認会計士河野隆治事務所	秋田市泉中央１丁目２番１５号

任期　令和６年６月定時評議員会　～　令和７年６月定時評議員会

５．会議等

(1) 評議員会

開催年月日	出席者数		決議・協議事項
	評議員	理事	
令和6年6月25日	8	1	1 令和5年度事業報告及び決算 2 社会福祉充実計画(案) 3 会計監査人の選任
令和7年1月14日			1 定款の一部変更(みなし決議)
令和7年3月19日	7	1	1 定款の一部変更 2 役員等報酬規則の一部改正

(2) 理事会

開催年月日	出席者数		決議・協議事項
	理事	監事	
令和6年6月3日	6	2	1 令和5年度事業報告及び決算 2 社会福祉充実計画(案) 3 令和6年度第1回補正予算(案) 4 会計監査人の選任及び報酬 5 定時評議員会の開催
令和6年9月9日			1 有期契約職員就業規則の一部改正(みなし決議)
令和6年11月13日	7	2	1 令和6年度第2回補正予算(案)
令和7年1月6日			1 定款の一部変更(みなし決議)
令和7年3月12日	7	2	1 定款の一部変更 2 役員等報酬規則の一部改正 3 組織規則の一部改正 4 職員就業規則の一部改正 5 育児・介護休業規則の一部改正 6 職員給与規則の一部改正 7 継続雇用職員就業規則の一部改正 8 有期契約職員就業規則の一部改正 9 無期契約職員就業規則の一部改正 10 臨時的短期間雇用職員就業規則の一部改正 11 旅費規則の一部改正 12 会計規則の一部改正 13 令和6年度第3次補正予算(案) 14 令和7年度事業計画(案) 15 令和7年度当初予算(案) 16 施設長等の任命 17 役員賠償責任保険への加入 18 第2回評議員会の開催 19 職員採用計画 20 資金運用

(3) 施設長会議

開催年月日	内容
令和6年5月27日	1 令和5年度事業報告及び決算(案) 2 令和6年度第1次補正予算(案) 3 新型コロナウイルスワクチンの取扱い 4 地域連携推進会議 5 実践発表会 6 理事会議案

開催年月日	内 容
令和6年5月27日	7 職員採用 8 カメラの設置 9 その他
令和6年7月19日	1 地域連携推進会議 2 実践発表会 3 マイナ保険証 4 法人5か年計画 5 有給休暇取得状況調査の取扱い 6 第1回コロニー整備検討会 7 第1回職員採用試験 8 法人ホームページの改修 9 第57回全国社会福祉事業団大会 10 ICT化の取組み 11 支援課付事務員配置の取組み 12 その他
令和6年11月6日	1 令和6年度第2次補正予算 2 秋田県社会福祉事業団中期経営計画期間設定(案) 3 法人キャリアパス体系(案) 4 有給休暇取得状況調査の取扱い 6 日本赤十字秋田短期大学「長期履修制度」への協力 7 ICTプロジェクトチームの活動報告 8 職員採用の状況 9 労災事故に係る対応 10 定額減税調整給付金に係る業務ミスの対応 11 コロニー整備検討会 12 理事会議案等 13 諸規則等の改正 14 その他
令和6年12月24日	1 令和7年度の給与体系(案) 2 秋田県社会福祉事業団中期経営計画(案) 3 意思決定支援ワーキンググループの立ち上げ 4 内部経理監査結果 5 職員採用状況 6 南部エリアの今後のあり方に関する協議会 7 秋田銀行ビジネスIB利用等に係る振込手数料 8 職員給与振込口座 9 一般照明用蛍光ランプの製造中止等 10 社会福祉充実残額 11 その他
令和7年2月28日	1 令和6年度第3次補正予算(案) 2 令和7年度事業計画(案) 3 令和7年度当初予算(案) 4 規則改正(案)等 5 令和7年度職員採用計画(案) 6 実践発表会 7 中期経営計画のデザイン(案) 8 南部老人福祉総合エリア養護老人ホームの廃止 9 秋田県心身障害者コロニー施設整備検討会 10 理事会議案等 11 研修受講者の選定 12 職員提案制度

開催年月日	内　容
令和7年2月28日	13 意思決定支援等ワーキンググループの進捗状況 14 ICT化プロジェクトチームの活動報告 15 その他

(4) 監事の監査

開催年月日	内　容
令和6年5月30日	令和5年度事業報告及び決算

(5) 会計監査人の監査

開催年月日	実施箇所	内　　容
令和6年5月7日 ～5月9日	事　務　局	令和5年度決算に係る期末監査
令和6年5月30日	事　務　局	令和5年度事業報告及び決算
令和6年11月5日 ～11月9日	各　施　設	会計拠点区分の期中監査
令和7年1月21日 令和7年2月　6日 令和7年3月18日	監査人事務所	会計拠点区分の期中監査
令和7年3月28日	事　務　局	事務局の期中監査

６．職員

１.職員の配置状況　　令和７年３月３１日現在

区　分	正職員（広域職）	正職員（地域職）	継続雇用	無期契約	有期契約	合計
事務局	13	0	0	1	0	14
北部老人福祉総合エリア	5	0	0	7	3	15
中央地区老人福祉総合エリア	4	0	0	7	3	14
南部老人福祉総合エリア	17	2	3	29	24	75
高清水園	35	1	2	16	24	78
心身障害者コロニー	115	1	5	89	59	269
由利本荘地域生活支援センター	14	0	1	12	13	40
阿桜園	40	3	3	30	31	107
やまばと園	19	1	2	15	24	61
障害者支援センター御所野	18	0	1	3	7	29
点字図書館	2	0	0	4	2	8
聴覚障害者支援センター	1	0	1	0	4	6
計	283	8	18	213	194	716

区　分	正職員（広域職）	正職員（地域職）	継続雇用	無期契約	有期契約	合計
施設長等	13	0	2	0	0	15
課長	19	0	0	0	0	19
事務員	33	0	2	27	15	77
支援員	173	8	9	136	110	436
保健師・看護師	17	0	0	2	8	27
栄養士	7	0	0	0	2	9
理学療法士	1	0	0	0	0	1
技師	16	0	4	12	23	55
世話人	0	0	0	14	16	30
宿直専門員	0	0	0	18	9	27
その他	4	0	1	4	11	20
計	283	8	18	213	194	716

２.職員数の推移　　令和７年３月３１日現在

	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度
正職員	298	302	296	296	292	291
継続雇用職員	21	25	25	25	23	18
無期契約職員	180	201	219	226	215	213
有期契約職員	261	237	224	209	217	194
計	760	765	764	756	747	716

３．正職員の採用実績等

令和７年３月３１日現在

職種	採用区分		令和１	令和２	令和３	令和４	令和５	令和６
福祉職	大学卒	広域職	6	4	6	2	4	5
		地域職		0	0	0	0	0
	短大卒	広域職	2	1	0	3	1	2
		地域職		0	0	0	0	0
	高校卒	広域職	0	2	2	2	0	0
		地域職		2	0	0	0	1
	職務経験	広域職	6	2	0	1	2	2
		地域職		5	0	1	1	2
福祉職　計			14	16	8	9	8	12
看護職	年度当初		3	1	0	1	2	0
栄養士等			0	0	1	1	0	0
技能職			0	0	0	0	0	1
医師・看護職	年度中途		1	0	1	1	1	1
栄養士等			0	0	0	0	0	0
技能職			0	0	1	0	0	0
専門職　計			4	1	3	3	3	2
最近の採用実績　計			18	17	11	12	11	14

職種	離職区分	令和１	令和２	令和３	令和４	令和５	令和６
福祉職	定年退職	6	5	4	7	0	5
看護職		0	1	1	1	0	1
栄養士等		0	0	0	0	0	1
技師		3	4	2	0	0	1
定年退職　計		9	10	7	8	0	8
福祉職	早期退職（年度末）	2	4	2	3	7	1
医師・看護職		0	0	0	0	2	0
栄養士等		0	1	1	0	0	0
技能職		0	1	0	0	0	1
福祉職	早期退職（年度中途）	2	2	1	0	3	5
医師・看護職		0	0	0	2	1	1
栄養士等		0	0	0	0	0	0
技能職		0	0	0	0	0	0
早期退職　計		4	8	4	5	13	8
最近の離職者数　計		13	18	11	13	13	16

職種	令和１	令和２	令和３	令和４	令和５	令和６
福祉職	247	253	251	254	249	249
医師・看護職	19	20	20	19	20	18
栄養士等	8	8	8	8	8	8
技能職	24	21	17	15	15	16
職員数　計	298	302	296	296	292	291

※栄養士等　栄養士、理学療法士、作業療法士

※各年度の集計人数は、年度末の定年退職者及び早期退職者（年度末）を含む。

７．研修の実施状況

法人研修

区　分	研　修　名	開催日	参加人員（名）
キャリアパス対応研修	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程　中堅職員コース	6/11～6/12	16名
	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程　管理職員コース	8/1～8/2	8名
	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程フォローアップ研修　チームリーダーコース	10/11	15名
	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程フォローアップ研修　初任者コース	12/3	16名
階層別研修	令和６年度　新規採用職員研修	4/24～4/25	14名
	中堅職員研修（福祉・介護職員等処遇改善加算対象研修）	10/24	23名
	新規採用職員事前研修	3/21	17名
分野別研修	福祉の森システム研修会	6/11	23名
	グループホーム等世話人研修会	9/19	30名
	サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者実践研修　事前研修	11/8・11/11	4名
	会計担当者（初任者）研修	12/17	17名
	情報システム担当者研修	1/16	26名
意識改革研修	職員育成研修②「コミュニケーション技術研修」	7/23・8/23	34名
一般研修等	職員育成研修①「介護技術研修」	7/10	21名
	個人情報保護に係るオンライン研修	9/19	－
	意思決定支援研修	11/15	36名
	秋田県社会福祉事業団実践発表会	12/13	94名

事務局

区　分	研　修　名	開催日	参加人員（名）
キャリアパス対応研修	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程　上級管理職コース	2/13～2/14	1名
資格・認定・加算対象研修	サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者　実践研修	12/5～12/6	1名
	強度行動障害支援者養成研修　基礎研修	3/4・3/6	1名
	強度行動障害支援者養成研修　実践研修	3/11・3/13	1名
分野別研修	福祉会計セミナー（初級編）	7/4	1名
	医療的ケア児等コーディネーターフォローアップ研修	7/27	1名
	社会福祉法人オンラインセミナー　「社会福祉法人　基本編」	8/8	1名
意識改革研修	介護現場のカスタマーハラスメントの防止と予防	1/28	2名
一般研修等	防災教育（普通救命講習Ⅰ）	4/23	3名
	新卒採用情報セミナー	5/23	2名
	訪問及び事業所視察（国立のぞみの園・ゆめふる成田）	5/23～5/24	2名
	接遇講習会（新人職員向け）	6/20	1名
	視察訪問（社会福祉法人善光会）	7/1	2名
	都道府県経営協セミナー（前期）	8/9	1名
	社会福祉法人人事・労務管理講座	9/24～9/25	2名
	湯沢市基幹相談支援センター研修会（意思決定支援）	10/15	1名
	適性な労務管理と人材確保策	11/18	1名
	北海道・東北ブロック社会福祉事業団連絡協議会職員研修Ⅰ	12/13	2名
	秋田県介護サービス事業所認定評価制度公開講座	2/6	1名
	アメニティフォーラム28	2/7～2/9	1名
	障害者福祉事業経営セミナー	3/12	1名
その他の研修	全国社会福祉事業団大会（秋田県）	10/17～10/18	12名

秋田県北部老人福祉総合エリア

区　分	研　修　名	開催日	参加人員（名）
分野別研修	安全運転管理者講習	6/21	1名
	SNS等デジタルを介した顧客接点におけるホスピタリティ向上セミナー	12/11	1名
一般研修等	目に見えにくい障害に関するセミナー	9/10	1名
その他の研修	全国社会福祉事業団大会（秋田県）	10/17～10/18	2名

秋田県中央地区老人福祉総合エリア

区　分	研　修　名	開催日	参加人員（名）
階層別研修	新任職員研修	4/2	2名
分野別研修	甲種防火管理再講習	6/14	1名
一般研修等	防災教育（普通救命講習Ⅰ）	4/23	5名
その他の研修	全国社会福祉事業団大会（秋田県）	10/17～10/18	1名

秋田県南部老人福祉総合エリア

区　分	研　修　名	開催日	参加人員（名）
キャリアパス対応研修	福祉職員キャリアパス対応生涯研修　指導者養成研修	7/6～7/8	1名
資格・認定・加算対象研修	秋田県相談支援従事者　現任研修	5/29～9/12	1名
	認知症介護基礎研修	7/5	1名
	介護支援専門員研修（再）	8/30	1名
	秋田県災害派遣福祉チーム員スキルアップ研修Ⅰ	10/17～10/18	1名
	サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者　更新研修	10/4	1名
	秋田県災害派遣福祉チーム員スキルアップ研修Ⅱ	1/23	1名
階層別研修	新任等職員研修　オリエンテーション	4/11	11名
	新任等職員研修　オリエンテーション	10/10	1名
	介護労働者の雇用管理責任者講習・eラーニング	12/2	1名
分野別研修	調理技術研修	6/18	1名
意識改革研修	虐待防止ロールプレイ研修（第１回）	7/18	5名
	要介護施設従事者等による高齢者虐待対応研修	11/16	3名
	要介護施設従事者等による高齢者虐待対応研修　伝達研修	11/27～2/10	49名
	虐待防止ロールプレイ研修（第３回）	1/28～1/29	12名
	エルダー・メンター養成研修	2/4	1名
	虐待防止チェックリスト対応研修	2/14～3/5	34名
	権利擁護支援研修会	3/10	1名
一般研修等	メンタルヘルス研修「健康講話」	7/30・8/6	25名
	ケアマネジメント研修会	7/31	2名
	福祉サービスに係る苦情解決研修会　中級編	8/19	1名
	メンタルヘルス研修「トレーニング体験」	8/8～9/26	31名
	生産性向上に向けたセミナー	9/29	1名
	腰痛予防研修	10/22	11名
	包括的・継続的ケアマネジメント	11/18	1名
	介護支援専門員等に対する実践力向上研修(事業管理者向け研修)	11/12	1名
	認知症ケアシリーズ「講話会」	11/1	1名
	防災アドバイザー研修	11/26	13名
	介護支援専門員等に対する実践力向上研修（災害対策関連研修）	11/19	1名
	秋田県社会福祉施設等感染症対応力推進者養成研修	12/6	2名
	水上安全法研修	12/3	6名
	横手市コミュニティ・スクール研修会	1/31	1名
	横手市在宅医療・介護多職種連携研修会	2/7	1名
	救命講習会	2/12	9名
	感染症予防研修	2/6	12名
	高齢者福祉事業経営セミナー	2/26	1名
	介護現場における生産性向上セミナー	3/12	1名
その他の研修	全国社会福祉事業団大会（秋田県）	10/17～10/18	4名
	全国老人福祉施設大会・研究会議	1/31	1名

高清水園

区　分	研　修　名	開催日	参加人員（名）
資格・認定・加算対象研修	相談支援従事者　現任研修	5/29～9/12	1名
	強度行動障害支援者養成研修（国研　指導者養成研修）　基礎研修	6/11	1名
	強度行動障害支援者養成研修（国研　指導者養成研修）　実践研修	6/14	1名
	相談支援従事者等　講師養成研修	6/21	2名
	強度行動障害支援者養成研修　実践研修	7/19～9/27	4名
	強度行動障害支援者養成研修　基礎研修	7/19～7/25	3名
	県医療的ケア児等指導者養成研修および医療的ケア児等コーディネーター養成研修	7/19・10/6	1名
	サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者　実践研修	8/1～8/2	1名
	サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者　基礎研修	8/19～8/20・11/15	3名
	サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者　更新研修	9/5～9/6	1名
	相談支援従事者研修　現任研修	5/29～9/12	1名
	東北ブロック相談支援従事者主任研修	11/25～12/20 1/21～1/24	1名
	秋田県災害派遣福祉チーム員スキルアップ研修Ⅱ	12/9・12/20	1名
階層別研修	新任・転任職員研修	4/4～4/9	6名
	新任職員研修	9/9・9/11	5名
分野別研修	短期入所日中一時対応説明会	4/26	7名
	医療的ケア児等地域生活支援研修	7/12	1名
	医療的ケア児等地域生活支援研修フォローアップ研修	7/27	1名
	トライアングル研修会	9/11	1名
	全国相談支援ネットワーク研修	11/12	1名
	福祉職域事業部GLIM基準研修会	12/21	1名
	日本人の食事摂取基準	2/1・2/28	2名
意識改革研修	権利擁護・虐待防止の取り組みや感情労働について（Special Learning７月研修）	7/8～7/19	44名
	虐待のない組織のために必要なこと　職員の「働きがい」の取り組み（Special Learning８月研修）	8/5～8/16	44名
	虐待・ハラスメント防止研修	9/2	1名
	虐待防止伝達研修　障害者差別解消・合理的配慮	9/11～10/31	72名
	コミュニケーション向上研修（Special Learninng12月研修）	12/9～12/20	44名
	障害者虐待防止・権利擁護研修	12/19	2名
一般研修等	不審者対応研修	4/11	12名
	自閉症の特性と学習スタイル（自閉症eサービス）	5/19	5名
	感染症予防研修	7/31	19名
	高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業支援担当職員研修会	8/30	1名
	県知協　事業所視察研修会（藤里町　虹の家）	9/5	1名
	強度行動障害支援者養成研修　実践研修　事前研修	9/17	2名
	自閉症の強度行動障害　事例と理解（Special Larning９月研修）	9/17～10/4	44名
	県知協専門研修会　意思決定支援	9/25	11名
	先進施設見学（社会福祉法人　足羽福祉会）	10/2	2名
	職員交換研修（センター御所野）	10/7～10/9 10/21～10/23	2名
	強度行動障害支援者実践ワークショップ	10/11	2名
	自閉症のコミュニケーション（Special Larning10月研修）	10/28～11/8	44名
	県感染症制御指導者育成研修	11/8	2名
	職員交換研修（センター御所野）	11/11～11/13 11/25～11/27	2名
	意思決定支援研修	12/6～12/17	65名
	全日本自閉症支援者協会岩手大会	12/9～12/10	4名
	障害者支援施設部会　全国大会	12/19～12/20	2名
	意思決定支援研修２	12/16～12/31	14名
	意思決定支援研修３	1/6～1/17	28名
	自閉症支援（Special Learning1月研修）	1/6～1/17	44名
	成年後見制度を学ぶ研修会	1/14	4名
	県知的障害者福祉協会職員研修会	2/5	5名
	先進施設見学（南山城学園）	2/6	3名
	アメニティフォーラム28	2/6～2/8	3名
	障害者国際権利条約（Special Larning2月研修）	2/17～2/28	44名
	北海道・東北ブロック社会福祉事業団連絡協議会職員研修	2/20～2/21	2名
	青森県知的障害者福祉協会障害者支援施設部会　研修会	3/4	4名
	高齢者とペットの福祉を考える県民フォーラム	3/15	1名

その他の研修	全国知的障害関係職員研究大会（福井県）	10/3～10/4	2名
	全国社会福祉事業団大会（秋田県）	10/17～10/18	15名

秋田県心身障害者コロニー

区　分	研　修　名	開催日	参加人員（名）
資格・認定・加算対象研修	相談支援従事者等　講師養成研修	6/21	1名
	相談支援従事者　現任研修	5/29～9/12	1名
	強度行動障害支援者養成研修　実践研修	7/16～10/17	15名
	強度行動障害支援者養成研修　基礎研修	7/22～3/18	7名
	サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者　更新研修	9/5～10/4	7名
	サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者　基礎研修	10/23～10/24	3名
	サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者　実践研修	12/5～12/6	2名
階層別研修	新規採用・転入職員研修	4/11	20名
	指導者養成研修（意思決定支援）	5/23	12名
分野別研修	工賃向上セミナー	7/3	1名
	危険物取扱者保安講習	8/6	1名
	就労アセスメント研修会	8/21	1名
	福祉保健施設・事業者等事務職員研修	9/9	1名
	全国グループホーム等研修会	9/12～9/13	3名
	日本基板ネットワーク全国大会	10/3～10/4	2名
	産業看護職研修	2/6	1名
意識改革研修	虐待・ハラスメント防止研修	9/2	1名
	リスクマネジメント研修	9/13	1名
	コンプライアンス研修	10/10	16名
	コーチング研修	12/17	3名
	障害者虐待防止・権利擁護研修	12/19	1名
	「介護現場のカスタマーハラスメントの予防と防止」研修	1/28	1名
	コミュニケーション向上研修	1/29	3名
	怒りのマネジメント研修	1/30	3名
	タイムマネジメント研修	1/31	2名
	障害者虐待防止・権利擁護研修（伝達研修）	1/23～2/14	255名
一般研修等	接遇講習会（新人職員向け）	6/20	1名
	感染症対策・応急手当対応研修	6/17	11名
	先進地視察研修（のぞみの園、ひまわりの丘、希望の郷）	7/3～7/5	4名
	メンタルヘルス講習会（セルフケア）	7/23～7/24	2名
	メンタルヘルス研修（ゲートキーパー養成研修）	9/25	7名
	救急救命講習会	10/22	12名
	成年後見制度研修	11/12	12名
	施設・社協職員のファシリテーション基礎講座	11/26～11/27	1名
	不審者対応研修	12/12	10名
	秋田県社会福祉施設等感染症対応力向上推進者養成研修	12/3	1名
	説明力・説得力向上研修	1/21	4名
	北海道・東北ブロック社会福祉事業団連絡協議会職員研修Ⅱ	2/20～2/21	3名
その他の研修	全国社会福祉事業団大会（秋田県）	10/17～10/18	8名
	障害者支援施設部会全国大会（広島）	12/19～12/20	3名

由利本荘地域生活支援センター

区　分	研　修　名	開催日	参加人員（名）
キャリアパス対応研修	福祉職員キャリアパス対応生涯課程　指導者養成研修	7/8	1名
資格・認定・加算対象研修	相談支援従事者　現任研修	5/29～9/12	3名
	強度行動障害支援者養成研修　基礎研修	7/22・7/25	4名
	秋田県障がい者ピアサポート研修　基礎研修	9/10～9/11	2名
	強度行動障害支援者養成研修　実践研修	9/25・9/27	4名
	秋田県医療的ケア児等コーディネーター養成研修	7/19・10/6	1名
	サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者　更新研修	9/5・10/4	4名
	秋田県障がい者ピアサポート研修	10/22～10/23	2名
	精神障害者支援の障害特性と支援技法を学ぶ研修	10/17～10/18	1名
階層別研修	新任職員・転任職員研修	4/4・4/23	5名

分野別研修	北海道・東北ブロック主任相談専門員フォローアップ研修	4/26	2名
	就業支援基礎研修	7/3～7/5	1名
	障害者就業・生活支援センター就業支援担当者研修	7/9・7/11	1名
	医療的ケア児等地域生活支援研修	7/12	1名
	中高年齢者の継続雇用に関する相談支援セミナー	7/17	3名
	小児在宅医療と災害時の対応	7/27	1名
	就労アセスメント研修	8/21	3名
	秋田県医療的ケア児等支援者養成研修	8/26・9/30	1名
	障害者就業・生活支援センター北海道・東北ブロック経験交流会議	11/14	1名
	障害者就労支援セミナー「共に考える障害者雇用」	11/27	3名
	配置型ジョブコーチと学ぶケーススタディ	12/12	3名
	就職支援フォーラムNIPPON2024	12/14～12/15	1名
	障害者就労支援セミナー「共に考える障害者雇用」	12/20	3名
	事業報告セミナー「就業に伴う生活面の支援ニーズに関する連携モデルに係る調査事業」	2/17	1名
	秋田市障がい者総合支援協議会児童部会・就労部会合同研修会	2/20～3/7	3名
	障害者就業・生活支援センター事業をより深く考えるための全国フォーラム	2/28～3/1	1名
	CEF2025　質の高い障害者雇用を考える会議	3/7～3/8	3名
	就労選択支援モデル事業報告会	3/13	3名
	秋田市障がい者総合支援協議会児童部会・就労部会合同研修会	3/19	2名
意識改革研修	虐待防止及びメンタルヘルス研修	10/1～10/8	24名
	障害者虐待防止・権利擁護研修	12/19	1名
	虐待防止研修（動画視聴）	10/10～12/19	23名
	障害者虐待防止・権利擁護研修　伝達研修	1/28～2/4	39名
一般研修等	救命救急研修	7/2	9名
	ジェノグラムを活用した家族支援と対人援助	8/21	1名
	高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業支援担当職員研修	8/30	1名
	家計改善の理解を深める研修会	9/20	2名
	県知協専門研修会（意思決定支援）	9/25	1名
	感染症対策研修	10/29	9名
	職員交換研修（センター御所野）	11/26	1名
	障害者理解促進研修会	11/20	3名
	にかほ市障害者自立支援協議会　生活・就労部会・障害年金研修会	11/22	3名
	にかほ市成年後見制度支援者向け研修会	1/17	3名
	介護技術研修（伝達研修）	1/22	5名
	発達障害支援者研修「その人らしさを真ん中に」	2/20～3/7	3名
	意思決定支援研修	1/28～2/4	40名
その他の研修	全国社会福祉事業団大会（秋田県）	10/17～10/18	2名

阿桜園

区　分	研　修　名	開催日	参加人員（名）
資格・認定・加算対象研修	強度行動障害支援者養成研修　実践研修	6/8～9/27	5名
	認知症介護基礎研修	7/5	1名
	強度行動障害支援者養成研修　基礎研修	7/22・7/25	1名
	秋田県相談支援従事者　初任者研修	7/17～12/26	1名
	サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者　更新研修	9/5～10/4	3名
	医療的ケア児等支援者養成研修	9/24	1名
階層別研修	新任・転任職員研修	4/4	9名
分野別研修	医療的ケア児等コーディネーターフォローアップ研修	7/27	1名
	トライアングル研修会	9/11	14名
	大仙市基幹相談支援センターかのん研修会	10/18	3名
	日中活動支援部全国大会	1/29～1/30	1名
	公正採用選考人権啓発推進員研修会	1/30	1名
	地域生活支援事業研修会	3/18	2名
意識改革研修	障害者虐待防止研修	5/22～6/30	70名
	虐待防止ロールプレイ研修	11/1～11/30	19名
	障害者虐待防止・権利擁護研修	12/19	3名
	障害者虐待防止・権利擁護研修（伝達研修）	1/15～1/31	102名
	身体拘束廃止に向けた研修	2/5	43名
	権利擁護研修会	3/10	1名

一般研修等	普通救命講習	6/18	11名
	スキルアップ研修（強度行動障害支援）	7/5	10名
	メンタルヘルス研修	7/23	1名
	スキルアップ研修（意思決定支援研修）	9/19～11/30	44名
	秋田県知的障害者福祉協会専門研修	9/25	1名
	ＩＣＴ化プロジェクトチーム国際福祉機器展	10/3～10/4	1名
	県南障害協職員保護者合同研修会	12/6	3名
	福祉実践あきた	12/10	1名
	意思決定支援研修	1/28～2/28	97名
	秋田県障害福祉団体合同研修会	2/17	1名
	北海道・東北ブロック社会福祉事業団連絡協議会職員研修Ⅱ	2/20～2/21	1名
	青森県知的障害協議会支援施設部会研修会	3/4	1名
その他の研修	全国手をつなぐ育成会全国大会　秋田大会	9/12～9/13	2名
	全国社会福祉事業団大会（秋田県）	10/17～10/18	3名
	全国知的障害関係職員研究大会　福井大会	10/3～10/4	1名
	障害者支援施設部会全国大会　中部地区大会	12/19～12/20	1名
	全日本自閉症支援者協会岩手大会	12/9～12/10	1名
	全国支援スタッフ委員代表者会議	3/6～3/7	1名

やまばと園

区　分	研　修　名	開催日	参加人員（名）
資格・認定・加算対象研修	強度行動障害支援者養成研修　実践研修	5/28～9/27	7名
	相談支援従事者等　講師養成研修	6/21	1名
	強度行動障害支援者養成研修　基礎研修	7/16～8/6	3名
	秋田県相談支援従事者　初任者研修	7/17～12/26	1名
	介護支援専門員研修（再）	10/25	1名
階層別研修	転任・新任職員オリエンテーション	4/4	3名
	新任職員オリエンテーション	6/5	2名
	新任職員研修	12/16	3名
分野別研修	東北主任相談支援専門員フォローアップ研修	4/26	1名
	はじめての給与担当者研修	5/30	1名
	研修担当職員研修	7/2～7/3	1名
	秋田県医療的ケア児等コーディネーターフォローアップ研修	7/27	2名
	施設給食担当職員研修	8/21	1名
	福祉保健施設・事業者等事務職員研修	9/9	1名
	危険物取扱者保安講習	9/9	1名
	トライアングル研修会	9/14～9/30	5名
	相談支援部会視察研修	10/10	2名
	ペアレントトレーニング心理教育的アプローチ	10/14	1名
	湯沢市基幹相談支援センター研修会	10/15	2名
	湯沢市雄勝郡社会福祉入所施設協議会研修会	12/5	3名
意識改革研修	コーチング研修	12/17	1名
	障害者虐待防止・権利擁護研修	12/19	1名
	障害者虐待防止・権利擁護研修（虐待防止責任者会議　伝達研修）	12/16～1/22	52名
	ロールプレイ研修	3/4～3/7	17名
	身体拘束の排除と理解を深める研修会	3/21	4名
一般研修等	ＩＣＴ化プロジェクトチーム国際福祉機器展	10/3～10/4	1名
	社会福祉施設等感染症対応力推進者養成研修	10/22	2名
	社会福祉法人なごみ会　地域公開研修	10/24	1名
	いなかわ　ささえあい研修会	11/13	2名
	秋田市障がいサポーター養成講座兼湯沢市民生委員協議会障がい者福祉部会研修	11/19	2名
	触法障害者への支援	11/21	11名
	発電機研修	11/21	8名
	感染症予防研修	12/12	12名
	成年後見制度を学ぶ研修会	1/14	2名
	北海道・東北ブロック社会福祉事業団職員研修Ⅱ	2/20～2/21	2名
	介護技術研修	2/26	7名
	支援アドバイザー研修　意思決定支援	3/6	14名
その他の研修	障害者支援施設部会全国大会中国地区　広島大会	12/19～12/20	2名

障害者支援センター御所野

区　分	研　修　名	開催日	参加人員（名）
資格・認定・加算対象研修	強度行動障害支援者養成研修　実践研修	9/25・9/27	1名
	強度行動障害支援者養成研修　基礎研修	10/15・10/23	2名
	災害派遣福祉チームスキルアップ研修Ⅱ	1/23～1/25	1名
階層別研修	新任・転任職員研修	4/2～4/3	3名
意識改革研修	ＯＪＴリーダー研修	6/5・6/7	4名
	アサーティブコミュニケーション	6/5	2名
	コンプライアンス研修	6/11～7/22	26名
	業務改善研修	11/13	10名
	障害者虐待防止・権利擁護研修	12/19	1名
	介護現場のカスタマーハラスメントの予防・防止	1/28	1名
	コミュニケーション向上研修	1/28	1名
	障害者虐待防止・権利擁護研修	1/18	11名
	虐待防止・権利擁護研修　伝達研修	2/3～2/15	17名
	ＯＪＴリーダー研修	2/4	1名
一般研修等	感染症予防研修・救急搬送時研修	5/28	6名
	救命講習	6/16	2名
	障がい体験研修（障がい体験キット）	7/20～7/30	21名
	感染症対策研修	7/31	6名
	救急救命講習	8/24	2名
	介護技術研修	9/12	11名
	ハイクオリティサービス推進システム研修	9/21～10/19	26名
	職員交換研修（由利本荘地域生活支援センター）	10/2	2名
	職員交換研修（高清水園）	10/7・10/23	2名
	広報紙研修	11/7	1名
	職員交換研修（高清水園）	11/11・11/27	2名
	福祉避難所開設シミュレーション訓練	11/16	9名
	感染予防研修（BCP）	11/6～11/13	20名
	福祉実践2024inあきた	12/10	1名
	北海道・東北ブロック社会福祉事業団連絡協議会職員研修Ⅱ	2/20～2/21	1名
	意思決定支援ガイドライン研修	2/15～2/17	16名
	感染症予防研修	3/6～3/14	4名
その他の研修	全国社会福祉事業団大会（秋田県）	10/17～10/18	3名

秋田県点字図書館

区　分	研　修　名	開催日	参加人員（名）
分野別研修	音声版「選挙のお知らせ」製作オンライン研修会	5/23	2名
	サピエ研修会	7/4～7/5	8名
	東北・新潟・北海道ブロック点字図書館等連絡協議会点訳部会研修会	9/12～9/13	1名
	点字指導員講習会	9/19	1名
	見えない・見えにくい方へのサポート研修会	11/29	3名
	点字図書館サービス理解促進研修	1/23	8名
一般研修等	関係機関の視察研修（秋田ワークセンター）	8/26・8/30	8名
	個人情報保護に係る研修	9/25	7名
	災害時対応研修	11/19	7名
	北海道・東北ブロック社会福祉事業団連絡協議会職員研修Ⅱ	2/20～2/21	1名
その他の研修	全国社会福祉事業団大会（秋田県）	10/17～10/18	4名

秋田県聴覚障害者支援センター

区　分	研　修　名	開催日	参加人員（名）
分野別研修	第１ブロック映像制作担当者実技研修	1/29	2名
	第１ブロック意思疎通支援者担当者研修	2/5	2名
一般研修等	個人情報保護研修（指定管理施設における個人情報取扱方法）	10/16	5名
	第１ブロック活動研修会	11/1	1名
	先進地視察研修（岩手県立視聴覚情報センター）	11/8	2名
	先進地視察研修（宮城県聴覚障害者情報センター　みみサポみやぎ）	11/20	2名
その他の研修	全国社会福祉事業団大会（秋田県）	10/17～10/18	2名

８．苦情解決処理状況

（１）施設別件数

区　　分	（職員の接遇等）サービス内容	（サービスの質・量）サービス内容	説明・情報提供	施設・設備	制度・施策	金銭	被害・損害	権利侵害	その他	計	（継続中の件数）苦情解決結果
北部老人福祉総合エリア				1			1			2	0
中央地区老人福祉総合エリア										0	0
南部老人福祉総合エリア	2									2	0
高清水園										0	0
心身障害者コロニー										0	0
由利本荘地域生活支援センター										0	0
阿桜園	1									1	0
やまばと園									1	1	0
障害者支援センター御所野	1	1							1	3	0
点字図書館										0	0
聴覚障害者支援センター										0	0
計	4	1	0	1	0	0	1	0	2	9	0

（２）苦情の主な内容

	内容の分類	件数	割合	苦情内容	解　決　策
利用施設	被害・損害	1	50%	保管物品の紛失について	申出人へ謝罪し、物品の弁償、受付の対応改善を図ることで了承を得た。
障がい施設・老人施設	サービス内容（職員の接遇等）	4	57%	利用者への職員の対応について	当該職員へ支援に係る基本姿勢について説明する。職員から利用者本人へ謝罪し、申出人へ引き続き気づいたことがあれば遠慮なく連絡してほしい旨伝えた。
	サービス内容（サービスの質と量）	1	14%	トイレの汚れについて	汚れがあれば都度掃除するよう職員に周知し、申出人にも汚れが気になった場合は都度職員を読んでもらうこととし、了解を得た。
	その他	2	29%	グループホームの排雪により道路の通行の妨げになっていることについて	道路の通行に支障が出ないように排雪するよう職員へ周知し、申出人から了解を得た。

（３）過去５年間における苦情件数の推移

年　　度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
件　　数	14	29	22	14	18

（４）苦情解決処理委員会の開催状況

施　設　名	開　催　日	出席者人数	会　議　内　容
北部老人福祉総合エリア	令和7年3月13日	・第三者委員　２名 ・職員　２名	・令和６年度苦情解決処理状況について ・令和６年度事業実施状況について
中央地区老人福祉総合エリア	令和7年3月12日	・第三者委員　２名 ・職員　２名	・苦情解決処理状況 ・顧客満足度調査報告 ・第三者委員からの助言
南部老人福祉総合エリア	令和7年3月4日	・第三者委員　２名 ・職員　９名	・苦情受付し対応した1件に関する経過説明と報告 ・第三者委員からの助言
高清水園	令和7年3月6日	・第三者委員　２名 ・職員　４名	・高清水園運営状況報告 ・苦情解決処理報告 ・なんでも相談実施状況
心身障害者コロニー	令和7年2月27日	・第三者委員　１名 ・職員　１１名	・苦情処理状況報告は０件 事例紹介 ・第三者委員より講評と助言
由利本荘地域生活支援センター	令和7年3月6日	・第三者委員　２名 ・職員　６名	・苦情解決処理状況報告 ・第三者委員からの助言
阿桜園	令和7年2月18日	・第三者委員　３名 ・職員　５名	・苦情解決処理報告１件 ・第三者委員からの助言
やまばと園	令和7年3月12日	・第三者委員　４名 ・職員　５名	・苦情受付件数及び苦情処理状況の説明 ・利用者の何でも聞きます会の内容説明
支援センター御所野	令和7年2月27日	・第三者委員　２名 ・職員　４名	・令和６年度苦情申出・解決状況の報告 ・第三者委員より講評と助言
点字図書館	令和7年3月12日	・第三者委員　２名 ・職員　２名	・苦情は無かったことと利用者に行った満足度調査について報告した。併せて全国的な利用者の状況や館の運営状況についても報告した。
聴覚障害者支援センター	令和7年3月11日	・第三者委員　２名 ・職員　２名	・令和６年度苦情解決処理について ・第三者委員より講評と助言

９．虐待防止（対策）委員会の開催状況

施　設　名	開　催　日	出席者人数	会　議　内　容
南部老人福祉総合エリア	身体拘束適正化委員会 年４回開催	・職員６～８名	・身体拘束等に係る検討事案の有無について ・各部署の支援状況報告について
	虐待防止対策員会 年４回開催	・職員６～７名	・令和６年度の虐待防止委員会の体制と計画について ・標語の掲示について ・軽費老人ホームの家族からの虐待事案について ・虐待防止自己点検の実施 ・虐待防止自己点検結果による検証と取組について ・高齢者虐待防止伝達研修について ・ロールプレイ研修について
	虐待防止委員会 令和6年9月27日 令和7年3月4日	・第三者委員２名 ・白寿園施設長 ・利用者代表 ・職員５～７名	・令和６年度の取組について ・軽費老人ホームの家族からの虐待事案について ・研修の実施状況について ・今年度の虐待防止への取組状況について ・チェックリスト、自己点検結果の取組状況について ・第３回虐待防止責任者会議の内容について
高清水園	虐待防止対策委員会 年14回実施	・職員１０名前後	・虐待防止委員会の年間計画について ・安全確保のための動作制限について ・虐待防止チェックリストについて ・虐待防止研修について ・保護者満足度調査について ・不適切な支援について （防止策と対応の検討）
	【GH】 虐待防止委員会 （地域連携推進会議） 令和6年 9月30日	・推進委員５名 ・職員６名	・運営等報告と意見交換 ・GHの見学
	【施設】 虐待防止委員会 （地域連携推進会議） 令和6年11月11日	・推進委員６名 ・職員９名	・運営等報告と意見交換 ・施設見学及び給食の試食
	虐待防止委員会 令和7年 3月 6日	・第三者委員１名 ・利用者１名 ・親の会１名 ・職員５名	・令和６年度虐待防止への取組状況 ・第２回虐待防止チェックリスト結果
心身障害者コロニー	虐待防止対策委員会 毎月実施	・職員１４名	・基本理念及び施設の運営方針 ・職員の倫理行動基準 ・虐待防止責任者会議報告 ・虐待防止マニュアルの改正要旨 ・虐待防止チェックリストの結果 ・虐待防止チェックリスト実施結果による今後の対応 ・各課より結果と対策 ・動作制限カンファレンス
	虐待防止委員会 令和6年9月19日	・第三者委員２名 ・保護者１名 ・利用者２名 ・職員１５名	・コロニーの現況について ・第１回虐待防止チェックリスト結果報告 ・虐待防止に関する取組報告 ・委員より講評・助言 ・コロニー支援課視察
	虐待防止委員会 令和7年2月27日	・第三者委員１名 ・保護者１名 ・利用者２名 ・職員１４名	・コロニーの現況について ・第２回虐待防止チェックリスト結果報告 ・虐待防止に関する取組報告 ・委員より講評・助言

施　設　名	開　催　日	出席者人数	会　議　内　容
由利本荘地域生活支援センター	虐待防止対策委員会 毎月実施	・職員６～７名	・支援状況確認について ・虐待アンケートについて ・虐待防止チェックリストの検証及び対応について
	虐待防止委員会 令和6年10月8日 令和7年3月6日	・第三者委員２名 ・利用者１名 ・保護者１名 ・職員５名	・令和６年度、取組状況について （チェックリスト・研修等） ・虐待防止委員より講評と助言
阿桜園	虐待防止対策委員会 毎月実施	・職員６～１０名	・虐待の疑いによる通報案件の確認 ・安全確保のための動作制限状況等について ・虐待防止研修・身体拘束廃止に向けた研修について ・虐待防止チェックリストの実施と結果について等
	虐待防止委員会 令和6年10月30日	・第三者委員１名 ・利用者１名 ・保護者１名 ・職員４名	・第１回虐待防止チェックリスト結果報告 ・阿桜園における安全確保のための動作制限状況等について ・虐待防止研修と虐待防止に向けた取組について ・委員からの評価・助言
	虐待防止委員会 令和7年2月18日	・第三者委員１名 ・利用者１名 ・保護者１名 ・職員９名	・阿桜園における虐待事例と虐待防止の向けた取り組みについて ・第２回自己点検結果（接遇チェック・接遇マイスターの推薦）について ・令和６年度の研修報告 ・委員からの評価助言
	臨時虐待防止対策委員会 案件が発生次第計３６回実施	・職員３～１０名	・利用者の動作制限について
やまばと園	虐待防止対策委員会 毎月１回開催	・職員５～１０名	・各寮の虐待案件の有無の確認 ・各寮の身体拘束案件の有無の確認 ・各寮の動作制限案件や対象者の状況確認 ・虐待防止チェックリスト実施
	虐待防止委員会 令和7年3月12日	第三者委員４名 職員５名	・虐待件数報告（０件） ・虐待防止対策の取組状況報告 （虐待防止チェックリスト結果報告、権利擁護、虐待防止に関する研修等の研修内容説明、外部の関係機関からの取組状況への評価） ・第三者委員、虐待防止委員からの質疑応答
支援センター御所野	虐待防止対策委員会 毎月実施	・職員４～８名	・今年度の取組について ・虐待防止チェックリストの結果と対応について ・虐待防止研修について ・動作制限対象者の状況確認について
	虐待防止委員会 令和6年9月13日 令和7年2月27日	・第三者委員２名 ・利用者１名 ・家族１名 ・職員８名	・虐待防止チェックリスト結果報告 ・虐待防止への取組状況報告 ・委員からの講評・助言、意見交換

10. ハイクオリティサービス推進システム

項　　目	内　　容
ヒヤリ・ハット（事故）報告	前年度に引き続き、誤薬に着目し、ハイクオリティサービス推進委員長会議で傾向の分析と防止策の検討を行った。
○誤薬の傾向 今年度は職員体制が変わる４月～６月の件数が多い傾向はみられなかった。発生時間帯として、薬局のミスや内服薬の不足など時間を特定できないその他が多かった。そのほか、施設では臨時薬の服薬漏れ、グループホームでは世話人の退勤後の支援員との引継ぎに関係したものが複数見られた。 ○今後のヒヤリ・ハット報告について ヒヤリ・ハット（事故）報告書について、ハイクオリティサービス推進委員長会議で検討し、令和７年度から事故報告書（行政指定の様式）とヒヤリ・ハット報告書を役割に応じて整理し、統一した様式へ変更することとした。また、令和７年度のヒヤリ・ハット報告書の提出については、新しい様式の運用の状況を確認するため、誤薬に限定せず、月一回データを各施設から提出してもらうこととする。	
自己評価	事業団自己評価基準に基づき、全職員が毎年１回実施し、その結果からサービス改善に向け取り組んだ。
【やまばと園】 強度行動障害支援者養成研修実践修了者を中心に、今後も、支援計画シートや手順書の作成、ケース検討を重ねて支援の方法を職員間で話合い、周知徹底し、統一した支援を提供していく。 【阿桜園】 放課後等デイサービス事業所の合同説明会にて、マニュアルについて保護者へ説明する機会を設け、不参加であった保護者へも説明会の資料として周知した。	
内部監査	ハイクオリティサービス推進システムに定められた規格類やマニュアルが適切に運用されているかを毎年一回監査し、書類及びヒアリングによる確認を実施した。
施設職員が監査員になることで発生する業務の負担感を排除することと、監査の視点の平準化を図ることを目的として、令和５年度に引き続き法人退職者と事務局職員が監査員となり実施した。 ○軽微な指摘　１件 ・前年度の指摘事項であったが、相談支援専門員の作成したモニタリング報告書がケースファイルに綴じられていないものがあった。 ○観察事項　１０件 ・事務局より発出された文書の回覧・周知が確認できなかった。 ・改正差別解消法研修の伝達研修などの実施が確認できなかった。 ・通知文書の整理不足　　など	

11. 地域密着型サービス外部評価事業

「認知症対応型共同生活介護（認知症グループホーム）」は、事業所が提供するサービスの質の向上とサービスを利用する側が事業所を選択する際の情報提供を目的とし、令和３年度から年１回の外部評価の受審か運営推進会議を活用した評価を選択し実施することが義務付けられている。

秋田県社会福祉事業団は秋田県から外部評価機関としての指定を受け、平成１７年から外部評価事業を実施してきた。外部評価の調査は令和５年度で終了し、令和６年２月に関係機関へ当該事業の終了の案内を送付した。

令和６年度の審査委員会を実施した後、令和６年６月地域密着型サービス外部評価機関廃止届を秋田県提出し、令和６年９月３０日事業廃止となった。

審査委員会

開　催　日	内　　容
令和６年５月２１日	・令和５年度地域密着型サービス外部評価事業についての説明 ・「事業所アンケート」集計結果報告 ・「家族アンケート」集計結果報告 ・地域密着型サービス外部評価事業終了について